

ちくさん クラブ 21

ニッポンの美味しいを共に創る

2022
vol.142

一生懸命 (栃木県/高山牧場)
快適な環境で乳牛の体調管理
高品質でおいしい牛乳を生産02

NEWS 第46回九州管内系統和牛枝肉共励会06

CASE STUDY (養豚)
農場の規模拡大と生産性の向上について08

教えて!中研 (肉牛、乳牛、養豚、養鶏)
冬場を迎えるにあたって10

連載 Dr.ジアーのMyカルテ
肉用鶏農場における冬場の温度管理の改善事例について14

共創するチカラ (宮崎県/宮崎牛)
飼料生産、繁殖、肥育、加工販売まで
「宮崎牛」生産販売で地域貢献目指す16

未来を創る新たな担い手たち
(香川県/STPF) 兄弟二人三脚で規模拡大や6次化に挑戦20

NEWS 全農養鶏セミナー202222
鳥インフルエンザから日本の養鶏を守る24
アルカリ性に注目した鳥インフルエンザ対策を!25
国内で豚熱の発生が継続26
配合飼料安定基金に関するJA全農の取り組み27

酪農レポート 牛乳消費拡大の取り組み28

情報 JACCネット和牛枝肉共励会/子牛市場
マーケット情勢32



畜産農家のみなさまへ

その設備

リース

で導入しませんか?

初期費用
0円

安心・安全の
手厚い
保険

急な設備更新に
スピード
対応



✓ あらゆるものがリースOK!
畜産経営に関する設備・機械・車両などあらゆるものがリース可能です。
*ただし不動産、消耗品を除きます。

✓ 中古機械の買取・販売も!
ご不要の農機や重機があれば無料で査定をいたします。また、JAを通して中古機械の販売も行っております。

✓ 経営に役立つ旬な情報!
中古PCや業務用洗濯機、従業員の寮としてのトレーラーハウス等、豊富な情報をご紹介します。



お気軽にお問い合わせください!

旬な情報はこちら!



特設HPはこちら!



リースセミナーはこちら!



高山牧場

快適な環境で乳牛の体調管理 高品質でおいしい牛乳を生産

栃木県鹿沼市の高山牧場は、搾乳牛約60頭で年間52万〜55万kgの生乳を出荷している。軒高で風通しの良い牛舎で、夏場も涼しく牛にとって快適な環境を維持。安全・安心で品質が高く、おいしい牛乳を安定して生産してきたという自信を基に、「層の飛躍を目指している」。



高山牧場の皆さん

高山牧場は水田に囲まれ、入り口ではバラやマリーゴールドが咲く花壇が迎える。飼育頭数はホルスタイン約100頭。搾乳牛約60頭、乾乳牛11頭、育成牛約30頭（預託約10頭）だ。生乳は栃木県酪農業協同組合が集乳し、子会社の酪乳業（株）が「とちらく牛乳」「とちおとめいちごミルク」として販売している。

環境改善し、万全の体調管理 粗飼料自給にも注力

牛舎はつなぎ飼いで、対尻式。搾乳はパイプライン方式でミルクカーを牛のところに持って行き搾乳す

る。腰をかがめての作業なので体に負担がかかるが、経営者の高山源喜さん（33）は「1頭1頭に目が行き届き、健康状態をしっかりと確認できる。餌の食べ具合もよく分かる。乳房の状態も見てるので、乳房炎の発生はゼロに近い」と話す。

夏の暑さは乳量に影響する。牛舎は軒高で風通しが良く、大型扇風機で風の流れがスムーズ。「背後に大芦川が流れていることもあり、猛暑でも気温は高くない。細霧冷房もあるが使用することはあまりない」といふ。

牛舎の通路を濃厚飼料用の自動給餌機が回り、糞尿はバンククリーナーで堆肥場に運ぶ。堆肥は自作地に散布するほか、希望する農家に提供することもある。粗飼料は自家栽培の稲わら、稲ホールクroppサイレイジ、牧草など。濃厚飼料はペレット飼料「まきはミックス」（JA東日本くみあい飼料（株））を与えている。圧ペントウモロコシやアルファルファペレット、綿実、重曹などが入っている。源喜さんは「重曹は腹づくりや夏バテ予防が狙い。1日6回給与し、量は乳量によって変えている」と強調する。

1頭あたりの搾乳量は約25kg／



栃木県

高山牧場

住所：栃木県鹿沼市酒野谷688
作業従事者：3人
飼養頭数：ホルスタイン種約100頭
創業：1963年
農地面積：飼料用稲約9ha、牧草はイタリアンライグラス約9ha、ソルゴー約5ha

「兄弟2人で経営を発展させ、2次・6次産業化にも挑戦したい」

高山源喜さん(左)、雄太さん(右)

日。1日あたり平均生乳出荷量は約1500kg。年間出荷量は52万555万kgになる。課題は、夏場の乳量低下対策と1頭あたりの搾乳量を現在の2割増の30kgにすること。対策として、重曹入りのペレット飼料で体調を維持し、1頭あたりの搾乳量を増やすことを目指している。源喜さんは「1年のうち10カ月搾乳、乾乳期間2カ月という理想に近づきたい。そうすれば搾乳量や年間出荷量を増やすことができる」と考えている」と話す。



自家栽培の粗飼料を食べる牛

庄ベントウモロコシや重曹が入っている濃厚飼料

効率的で牛に快適な牛舎 父の死を機に、兄弟で経営

高山牧場は、1963年、祖父の輝雄さん(91)が乳牛1頭からスタートした。源喜さんは乳牛に親しんで育ち、小学校の卒業文集には「将来は酪農の仕事をしたい」という夢をつづった。地元の農業高校を卒業後、酪農学園大学の短大に進学。2009年に卒業と同時に20歳で就農し、父の昭太さんと2人で酪農経営に励んだ。休む間もなく働き、18、19年には栃木県酪農青年女性会議の委員長として、栃木県産牛乳の消費拡大や酪農への関心を高めてもらう活動の先頭に立ってきた。

源喜さんが就農した当時、飼養頭数は今と変わらなかったが、木造の牛舎で、給餌、掃除は全て手作業で時間がかかった。そこで、効率的に作業ができ、乳牛に快適な牛舎を作ろうと考え、17年に鉄骨づくりの今の牛舎が完成した。ところが19年12月、父が農作業中の事故で死去した(享年64)。あまりに突然のことで、源喜さん



高山牧場を拓いた祖父の輝雄さん

はこのまま牧場を続けていくべきかどうかという難題に直面した。「歴史ある牧場。つぶしてはならない。立て直さなくてはいけない」と父の思いを受け継いでいくことを決意。「会社員の弟が朝晩に手伝いに来たおかげで、何とか切り抜けたが、この間の記憶はほとんどない」と弟とともに危機を乗り越えた。

兄の姿を見ていた弟の雄太さん(30)は「自分も牧場をやらなくてはいけない」と、2020年3月、会社を辞め就農した。兄と弟が酪農でタッグを組んだ瞬間だ。とはいえ、仕事の内容は源喜さんが教え、技術的な部分は獣医師や栃木県酪農協などが指導した。雄太さんは「朝は早く、仕事の量、幅が広く当初はかなりきつかった。覚えるだけで懸命だった。妻が応援してくれたので酪農の道に進めた」と振



栃木県酪農協やJA東日本くみあい飼料の担当者と打ち合わせ



パドックでリラックスした様子を見せる乾乳牛



雄太さんが普段管理する子牛

地元農家にも好評の高山牧場の堆肥

耕畜連携を推進 中高生の職場体験受け入れ

り返る。2年経ち「子牛の管理をはじめ、多様な仕事を任せられるようになった。搾乳手順を守り、発情をしつかり確認して取り組んでいきたい」と意欲を示す。

栃木県は北海道に次いで全国第2位の生乳生産量を誇る酪農王国。乳牛の飼養戸数も全国3位の636戸で、まさに「ミルクの国とちぎ」だ。そして、鹿沼市は栃木県酪農協発祥の地。祖父の輝雄さん、父の昭太さんは同農協の理事を務めた。昭太さんは、1996年、第14回全農酪農経営体験発表会で最優秀賞を受賞するなど、高山牧場は地域の酪農をリードしてきた。

栃木県は麦の作付面積と収穫量も全国第4位を誇る。麦作の振興には土づくり、堆肥の投入が不可欠なため、鹿沼市農業公社を通じて耕畜連携事業に協力している。春に麦を収穫した後、堆肥を投入し、秋に麦を収穫し、その後麦を作付け。源喜さんは「地元で堆肥を供給するシス

家族経営で60年 2次産業化、6次産業化も視野に

高山牧場は家族経営の牧場として発展し、来年で60年。一線を退いている祖父の輝雄さんは、源喜さん、雄太さんの仕事を温かく見守る。源喜さんの妻の春香さん(33)は酪農学園短大の同級生で、日光市にある日光霧降高原大笹牧場で乳製品加工を担当している。雄太さんの妻の悠華さん(30)は自営業をしつつ牧場の経理を担当する。母の幸子さんは、畜舎周辺の環境美化の取り組みとして、牧場入り口の花壇の手入れをしている。源喜さんの長男(2)は牛が大好き。トラクターな



かつての源喜さんと同じように、牛に親しむ高山さんの長男

ど働く車も大好きで、早くも後継者の片りんを見せる。

家族一丸で酪農にかかわる高山牧場。3代目となる源喜さんは「牧場に関することは弟と二人で相談。二人の合意で進めている」と語る。酪農は地域に欠かせない産業であり、観光や消費者との交流、食や仕事、命を学ぶ教育ファームとしても注目を集める。そうした情勢を踏まえ、二人は「生乳を出荷するだけでなく、より発展させていきたい。乳製品加工を取り入れた2次産業化、観光を視野に入れたセルフブランディング、6次産業化もやってみよう」と大きな夢を描いている。

第46回九州管内系統和牛枝肉共励会

九州・沖縄8県のJA系統農家が肥育技術を競う第46回九州管内系統和牛枝肉共励会が9月3日、福岡県太宰府市で開かれた。個人最高賞の金賞（農林水産大臣賞）にはJA鹿児島いずみの(株)中山畜産(長島町)が輝いた。団体優秀賞はJA鹿児島県経済連が7年連続で受賞、努力賞は全農大分県本部が受賞した。

出品頭数は、黒毛和種去勢109頭、黒毛和種雌10頭、褐毛和種去勢1頭の計120頭、枝肉の平均重量は、黒毛和種去勢533.7kg、同雌476.6kgで、いずれも全国平均を上回った。歩留等級を決める測定値の平均は、去勢がロース芯面積84.6cm²、バラの厚さ9.0cm、皮下脂肪の厚さ2.3cm、歩留基準値77.7。雌が

ロース芯面積73.4cm²、バラの厚さ8.0cm、皮下脂肪の厚さ2.5cm、歩留基準値76.1となった。A等級比率は去勢が100%で、全国平均96.9%を上回った。雌も100%で、全国平均の94.1%を上回った。脂肪交雑(BMS)No.の平均は、去勢が11.3で、4年連続2桁を超えた。雌は10.0だった。肉色基準

(BCS)No.は去勢3.7、雌4.0でいずれも昨年を上回った。審査委員長で公益社団法人日本食肉格付協会の芳野陽一郎専務理事は「黒毛和種去勢は、A等級が100%のパーフェクトな成績だった。歩留基準値も75以上が81.6%、80以上が20.2%(22頭)だった。肉質は褒める点しかない。BMS No.平均11.3と4年連続で2桁を超えた。雌はA等級が昨年に続き100%、飼養管理も合格点。肉質は昨年に比べ若干物足らなさを感したが、高レベルに変わりはなかった。褐毛和種去勢は、外観肉質とも標準的な枝肉だった。今後更なる高みを目指し、高品質和牛の生産に取り組んでいくこ

とを期待する」と講評した。審査の結果、金賞（農林水産大臣賞）は鹿児島県JA鹿児島いずみの(株)中山畜産が出品した「若春」（去勢・月齢29）が輝いた。父「若百合」、母の父「安福久」、母の祖父「百合茂」。枝肉重量579.5kg、ロース芯面積113cm²、バラの厚さ10.8cmで、歩留基準値は82.1。BMS No.は最上級の12、BCS No.は3。「出品牛の中で、ずば抜けた存在感のある枝肉。脂肪交雑は細かく十分で満遍なく交雑し、美しさを呈しており、特に肉の光沢、脂肪の質に優れ、艶やかさを持っている」と評価され、審査員満票で選出された。



「脂肪交雑が美しい」と評価された中山畜産出品の金賞受賞牛枝肉

金賞・銀賞の受賞者の喜びの言葉

金賞
中山畜産
中山正美さん
JA鹿児島いずみ



金賞受賞は平成17年に続き2回目。本当に「ありがたい」といいたい。子牛は血統を基に月齢が若く、素質を見て購入しています。粗飼料をたくさん食べ、必要以上に太らない素晴らしい牛に育ってくれた。筋肉質に仕上がりが、枝肉は体型通り、無駄な肉はついていない。これからも、肥育農家として、ひたむきに取り組んでいきます。

1席 銀賞
喜々津 昭さん
JAながさき県央



「長崎生まれの、長崎育ち」にこだわって育ててきたので、いい結果となりました。長崎和牛が全国ブランドに近づいたといえるのではないのでしょうか。背中や前軀幅の盛り上がりなど、今までになかったできあがりだったので期待していました。牛の持つ力を存分にいかすよう育ててきました。繁殖農家に「恩返し」ができました。

2席 銀賞
からつ前田畜産(株)
前田勇人さん
JAからつ



入賞するとは思っていませんでした。素晴らしい賞をいただき驚いています。背中の筋肉の張り、もの張りが良かった。均整のとれた牛でポリウムもあつた。マイナス面の少ない全体のバランスが良い佐賀牛に育ったと思います。牛舎は台地の上にあります。潮風も届く。自然環境に恵まれたところで育つたことが良い結果につながっていると思います。

3席 銀賞
有徳重和牛人工授精所
徳重真生さん
JA北さつま



多くの牛が出品された系統和牛枝肉共励会で銀賞3席を受賞できたことは良かった。出品した牛は、地元の子牛市場で購入したが、血統も良く、良い体型になりそうな雰囲気があった。実際、順調に育ち良い体型に育っていった。今後も遺伝能力を重視するとともに、良い体型に仕上げ、枝肉の量・質にこだわった経営をしていきたいと思っています。

団体優秀賞

JA鹿児島県経済連肉用牛事業部・栗脇豊部長



団体優秀賞7連努力を称えたい。力ある枝肉だった。農家、肥育農家のロース芯面積平均103.8cm²は過去最高、出品牛15頭全てが脂肪交雑基準(BMS)No.12。経営環境は厳しいが、畜産農家に弾みがつけばいい。来年も良い結果を残せるよう一つひとつ積み上げていきたい。

第46回九州管内系統和牛枝肉共励会 入賞者一覧

個人賞

賞	産地	出品者名	農協名	肥育期間	品種	性別	生体重(kg)	枝肉重量(kg)	格付	枝肉単価(円)	ロース芯面積(cm ²)	バラの厚さ(cm)	歩留基準値	BMS
金賞	鹿児島	(株)中山畜産	JA鹿児島いずみ	29	黒	去	847.0	579.5	A5	8800.0	113.0	10.8	82.1	12
銀賞1席	長崎	喜々津 昭	JAながさき県央	28	黒	去	803.0	535.4	A5	6000.0	102.0	9.7	80.5	12
銀賞2席	佐賀	からつ前田畜産(株)	JAからつ	29	黒	去	772.0	514.5	A5	5000.0	96.0	9.3	80.0	12
銀賞3席	鹿児島	有徳重和牛人工授精所	JA北さつま	27	黒	去	801.0	533.0	A5	4500.0	94.0	9.8	79.5	12
銅賞1席	大分	(株)浦田牧場	JAおおいた	29	黒	去	806.0	538.8	A5	4500.0	96.0	8.2	79.5	12
銅賞	福岡	南三宅牧場	JA筑紫	29	黒	去	761.0	511.1	A5	3500.0	122.0	9.0	83.5	12
銅賞	宮崎	乙守 治雄	JA都城	29	黒	去	852.0	565.9	A5	3500.0	93.0	10.1	79.3	12
銅賞	熊本	中村 正志	JAあしがた	28	黒	去	812.0	546.1	A5	3500.0	98.0	9.7	79.2	12
銅賞	鹿児島	同林ファーム	JA鹿児島いずみ	28	黒	去	832.0	570.8	A5	3500.0	127.0	10.4	84.5	12

団体賞

賞	産地	団体名
団体優秀賞	鹿児島	鹿児島県経済農業協同組合連合会
団体努力賞	大分	全国農業協同組合連合会大分県本部

農場の規模拡大と生産性の向上について

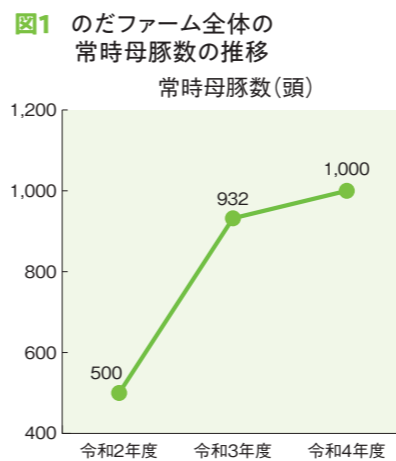


生産性の向上や資産形成を図るうえで、農場の規模拡大は重要な課題です。今回は、岩手県野田村を中心に養豚振興に取り組んできた株式会社のだファームの取り組みから、地域の特徴ある畜産振興を紹介いたします。

ウィーン・トゥー・フィニッシュからツーサイト農場へ

規模拡大への取り組み

畜産クラスターを利用し、2021年に従来のウィーン・トゥー・フィニッシュからツーサイト農場へと切り替えました。既存施設(現：第一繁殖農場)を改修し、母豚500頭から1000頭まで規模を拡大。これは、組合生産者の離農による規模縮小を補うため



の施策でもありました(図1)。最初に取り組んだのは、第一肥育農場の建設です。既存母豚を減らさずツーサイト農場に改修するため、新規農場の建設から着手しました。飼育中の肥育豚を新しい第二肥育農場へ移動させ、今まで使用していた肥育舎は離乳子豚舎として活用。子豚舎は、分娩・妊娠豚舎として改築し、第一繁殖農場として運用を開始しました。

規模拡大後の飼養管理について

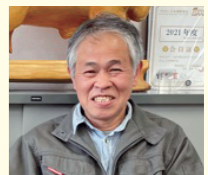
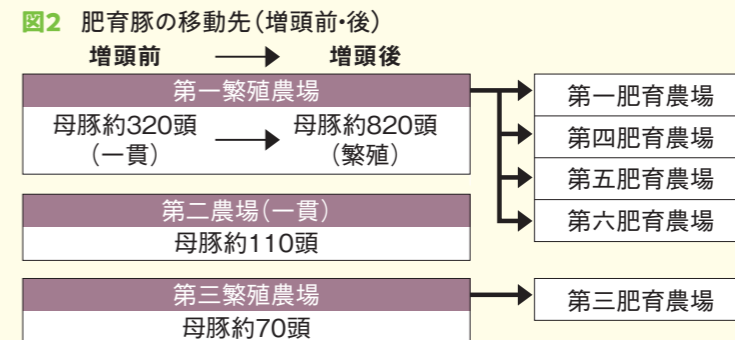
規模拡大後、母豚のロット管理が課

前身の農事組合法人野田協業養豚組合設立(1974年)から数え、今年で48年を迎える養豚生産法人です。経営の安定化や意思決定のスピード化などを図るため、2018年に株式会社化しました。現在は第一繁殖農場、第二農場(一貫)、第三繁殖農場、第二肥育農場第三〜六肥育農場の8農場を運営しています(図2)。

株式会社のだファームのあゆみ



畜産クラスター事業を活用して新設した第一肥育農場



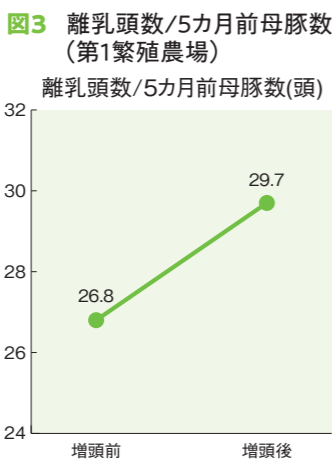
株式会社のだファーム 平谷東英代表取締役

※1 ウィーン・トゥー・フィニッシュ：離乳から出荷まで同じ豚舎で肥育する飼養方式
※2 ツーサイト農場：子豚の繁殖と肥育を地理的に分離した2つの農場で行う方式

させることにつながりました。これにより年間離乳頭数も28・73頭/5カ月前母豚数(図3)を記録。東北エリアにおけるPICS集計農場(ハイユープ豚)24農場中1位を獲得しました。

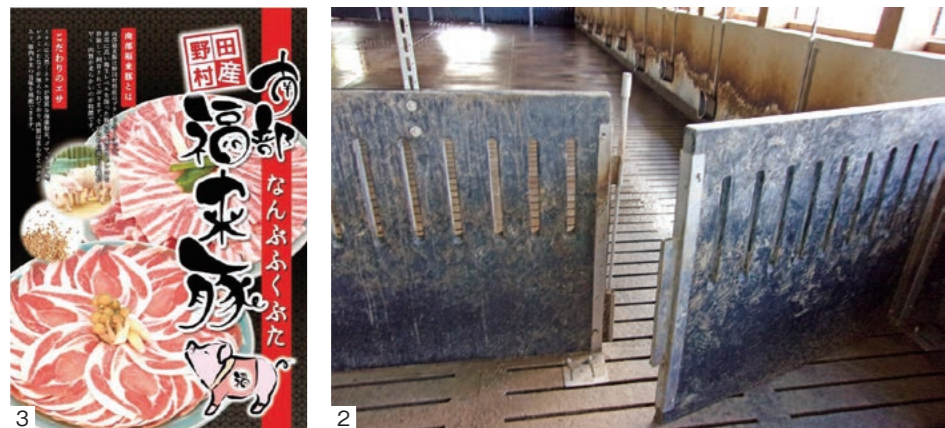


AI陰部洗浄(ロンテクト)により衛生レベルを向上



オートソーターの活用

オートソーティングシステムは、肥育豚の体重を自動計量して出荷できる豚を自動的に選別する設備です。肥育エリア・給餌エリア・出荷エリアに分けられており、餌を食べたい豚はオートソーター



1 出荷(手前)・給餌(左奥)・肥育(右奥)に分けられたエリア
2 豚房を半分仕切る壁
3 野田村産ブランドポークを周知するためのブランド戦略

を通り、給餌、あるいは出荷エリアに分けられます。この設備の導入によって、出荷にかかる業務の省力化が期待できます。現在、第一肥育農場には農場長含め3名の従業員が配置されています。収益に直結する体重測定はオートソーティングシステムを利用し、作業の効率化を図っています。出荷したい体重や

頭数の設定を行うだけで、適正体重の豚が肥育エリアから出荷エリアへと誘導されます。基準を満たさず、はじめられた豚は、給餌エリアを経由して再度肥育エリアに戻されます。給餌エリアに豚がとどまるのを防ぐため、水飲み場は給餌エリアに置かず、肥育エリアのみとする工夫がされています。また、出荷が進んで豚房内の豚が少

題となりました。ロットを徐々に大きくするため、今までの母豚のロットを意図的に崩し、古い豚の更新・導入豚の数を調整して一定の入舎頭数になるようなロットづくりを行い、各ロットの平準化を目指しました。当初は、初産が一気に増えることによる成績の低下が懸念されたものの、

なくなってきた時は、半分面積で飼育できるように豚房を分けることが可能となつているため、オールアウト前でも洗浄作業に取りかかれるつくりになっています。体重測定や選畜に人手を割かなくてよくなることで、少人数での運営を可能にし、第一肥育農場だけでも年間約1万頭、のだファーム全体で同2万6千頭の出荷を実現しています。

JAグループとの関わり

JAグループは株式会社化にともなう課題解決や新技術導入支援など、きめ細かいサポートを行い、農場立ち上げ時の生産体制構築に協力し、以降も良好な関係は続いています。

JA全農北日本くみあい飼料株式会社では海藻粉末を配合した仕上げ段階の専用飼料をつくり、一般の豚との差別化を図っており、これを食べた豚は野田村特産のブランドポーク「南部福来豚」として、JA全農いわてや株式会社いわちくと協力販売しています。

小規模な養豚農家が減少していく現在、株式会社のだファームのような大規模農場の存在は一層増えています。今後も株式会社のだファームのますますの活躍を期待しています。



肉牛
乳牛

冬場の飲水環境と生産性について

飲 水が制限されると、飼料摂取量の低下などの要因になります。飲水量は体格や乳量、季節、水質などによって左右されますが、水温によっても変化します。牛が好む水温は17～28℃のため、冬場の水温低下は飲水を妨げます。今回は飲水が牛に及ぼす影響と、冬場の対策を紹介します。

笠間乳肉牛研究室

飲水量と生産性

ステージや生産性によって異なりますが、1日に必要な飲水量は搾乳牛で75～180L、肥育牛で20～50Lとされています。そのため、清潔な水を常に飲めるように管理することが飼料摂取量を高め、成績向上につながると考えられています。

肥育牛を用いた当室の試験では、水槽とウォーターカップで比較したところ、肥育通期において、水槽区で飲水量が20%多く、飼料摂取量が2%増加し、出荷時の体重が16%向上しました(表)。乳牛では飲水量が25%制限された状況下で、制限前と比べ飼料摂取量が12%低下し、乳量が10%低下した報告もあります(Burgos et al.,2001)。子牛でも飲水できる環境下では、飲水できない環境下よりもスターターの摂取量が23%多くなっていました(大森ら,2015)。以上から、子牛から成牛まで飲水量の確保が生産性を低下させないために重要です。

表 飲水量が肥育通期における飼料摂取量及び増体に及ぼす影響

	水槽区	カップ区
飲水量(L)	17,310	14,210
配合飼料摂取量(kg)	5,024	4,913
通算DG(kg/日)	0.93	0.80

冷水が牛に及ぼす影響

冬場の水温低下は飲水量の減少、ひいては生産性の低下を引き起こします。搾乳牛では冬季に7℃または34℃の水を給与した試験で、冷水区は温水区より飲水量が10%少なくなっていました(小島ら,2015)。子牛はより顕著で、冬季に7℃または16℃の水を給与した試験では、冷水区で飲水量が30%減りました(Huuskonen et al.,2011)。また、冷水を飲水すると、ルーメン内の温度が低下し、微生物による飼料分解が抑制されます。そのため、冬場は水温を低下させない対策が必要となります。

冬場の水回りの対策

当室では、冬場に温水器を用いて25℃の温水を牛に供給していま

す(写真1)。これにより常に牛が好む温度の水を供給でき、同時に凍結防止にも役立っています。また、温水器の設置が難しい場合でも、凍結によって牛がまったく飲水できない状況为了避免のために、簡便な防止策として水道管にウレタン製の断熱材を巻き付ける方法があります(写真2)。注意点として、断熱材がむき出しだと牛がかじるため、パイプなどでカバーすることをお勧めします。以上から本格的な冬が始まる前に牛舎の水回りを確認して、冬季も牛が快適に飲水できる環境にしましょう。

写真1 当室で使用している温水器

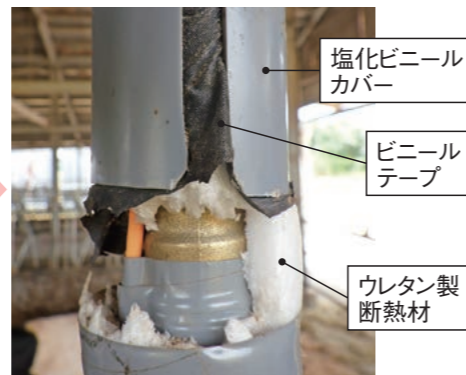


写真2 水道管の凍結防止例

<施工前>



<施工後>



塩化ビニールカバー

ビニールテープ

ウレタン製断熱材



肉牛
乳牛

子牛の寒さ対策について

子 牛は体重あたりの体表面積が大きく、脂肪も多くありません。また、被毛による断熱効果が薄く、反すう胃での発酵熱が少ないことなどから、成牛に比べ寒さに弱い状態です。寒さが子牛のエネルギー要求量に与える影響と、冬場の子牛の寒さ対策についてご紹介します。

笠間乳肉牛研究室

寒さが子牛のエネルギー要求量に与える影響

被毛や皮下脂肪の厚さなどにも影響を受けますが、子牛が最も快適な温度域は、3週齢までの子牛で、15～25℃、3週齢以上の子牛で5～25℃とされています。この温度域を下回る(あるいは上回る)と、体温を維持するために余分にエネルギーを消費しなければならず、子牛のエネルギー要求量は増加していきます(表1)。

20℃の環境下と比較した場合、0℃の環境下では、3週齢未満の子牛で38%、3週齢以上で18%も余分にエネルギーを必要とすることになります。寒ければ寒いほど必要なエネルギー量が増え、増体に悪影響を及ぼします。しっかりと寒さ対策を行いながら、寒冷期には代用乳

表1 ホルスタイン種子牛のエネルギー要求量に対する環境温度の影響 (NASEM Dairy 2021より)

環境温度(℃)	体温維持のためのエネルギー要求量(kcal/日)	
	0～3週齢	3週齢～
20	1,859 (+0%)	1,977 (+0%)
15	2,034 (+9%)	1,977 (+0%)
10	2,208(+19%)	1,977 (+0%)
5	2,383(+28%)	2,152 (+9%)
0	2,557(+38%)	2,326(+18%)
-5	2,732(+47%)	2,501(+26%)
-10	2,907(+56%)	2,675(+35%)

の給与量を増やす、油脂を多く含む高TDNの「ミルスター」を使用するという工夫で、不足するエネルギーを補うことができます。

子牛の寒さ対策

ジャケット着用やヒーターの活用など、子牛の寒さ対策にはさまざまな方法がありますが、当室ではポリタンクを代用した湯たんぽを活用した保温対策も行っています(写真)。ポリタンクに60～70℃のお湯を入れ、写真のようにハッチ内に入れて子牛を保温します。生まれて間もない子牛や、体調の優れない子牛等に使用します。1ハッチ内にポリタンクを4つまで置くことができますが、お湯の温度が高い間は、低温ヤケドをする可能性があるため、必ず子牛にカーフジャケットを着せ、少し隙間を空けてロープで倒れないように固定してください。

寒い外気から守るためには豊富な敷料も欠かせません。敷料の量(深

写真1 湯たんぽを利用した保温対策



表2 ネスティング・スコア (nesting score)

スコア1	スコア2	スコア3
子牛が横たわった際、肢全体が見える	子牛が横になると敷料である程度は隠れるが、部分的に肢が見える	子牛が横になると敷料で肢が全て隠れて見えない

写真2 子牛が横になると敷料で肢が隠れて見えない(スコア3)



さ)を考える指標の1つとして、ネスティング・スコア(nesting score)が提唱されています(Lago et al.,2006)。ワラなどを使用してしっかり「巣ごもり(nesting)」できるようにすると、子牛は外気から身を守ることができます。床からの底冷えを防ぐためにも、冬場は敷料の量を増やして子牛を寒さから守りましょう。

寒さ対策を考える上では、子牛に当たる風の強さも重要です。子牛に直接風が当たらないようカーテンやコンパネで風よけを作り、壁からの隙間風が当たっていないか等もチェックしましょう。一方で、完全に牛舎を閉め切ったままにしておくと、蓄積したアンモニアが気道粘膜にダメージを与え、呼吸器病の原因となります。冬場であっても一日の中で時間を決めてカーテンを開けるなど、定期的な換気が必要です。



鶏

寒冷環境下における注意点と対策

冬の寒さは、鶏舎環境及び鶏体に大きな影響を与える要因の1つであり、対策が欠かせません。そこで今回は、寒い時期に注意すべき点について紹介します。 **養鶏研究室**

温度と風速の影響

鶏は鶏舎内の温度のほか、風による体感温度の低下の刺激を受けます。例えば、風速1m/秒の風が鶏に与える影響として、産卵期において体感温度が3℃低下すると報告されています。風を与えることは、夏場の暑熱対策において重要ですが、冬場では逆に鶏にとって大きなストレスとなります。そのため、鶏舎内の温度だけでなく、体感温度も考慮した空調管理が必要となります。

寒冷環境下での鶏の生理反応と生産性への影響

寒冷環境下では、鶏の心拍数が増加し、呼吸数が低下するため、心臓、循環器に対して負荷がかかります。また、風速が0.2m/秒以上の時はアドレナリンの分泌が活発になることも報告されており、風速の程度

表1 採卵鶏1羽あたり必要換気量(m³/h)

気温	1週齢	3週齢	6週齢	12週齢	18週齢	18週齢～
30℃	2.0	3.0	4.0	7~8	10~11	13~15
20℃	1.4	2.0	3.0	4~5	6~7	8~10
10℃	0.8	1.4	2.0	3.0	4~5	5~6
0℃	0.6	1.0	1.5	2.0	3.0	4~5
-10℃	0.5	0.8	1.2	1.7	2.5	3~4

「コマーシャル鶏飼養管理ガイドジュリア(第9版)」より引用

によっては鶏の生産性や抗病性にとって、マイナスの効果が生じます。更に体温を維持するために必要なエネルギーが増加することで食下量が増加し、それともなって飼料効率が悪化して、生産コストの増加にもつながります。採卵鶏では、食下量の増加による卵重の増加も問題となり、3Lサイズ以上の卵の発生率増加や、卵殻強度の低下にもなる破卵率の増加が起こり、収益を悪化させる要因となります。

換気

冬場は温度維持を重視するため換気不良に陥りやすく、換気量に注意が必要です。換気には①熱、湿度の除去、②有毒ガスの除去、③ホコリの除去、④酸素の供給の4つの役割があります。換気が不十分な場合、採卵鶏では呼吸器や産卵への悪影響、ブロイラーでは床湿りや発

育障害、循環器への負担増加による腹水症などの発生にもつながるため、適切な換気(表1)を行うことが求められます。

消毒効果

消毒薬の種類によっては、冬場の低温が原因で除菌効果が低下することが確認されています(表2)。消毒薬の効力は「温度」、「濃度」、「作用時間」で決まるため、効力を高めるためには、「温度を高める」、「濃度を濃くする」、「作用時間をのばす」といった対処が必要になります。

特に近年は、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が猛威を振るっており、これらのポイントで対処が可能な場合は改善を行い、より高い意識で防疫を行う必要があります。

このように、冬場の寒冷環境下ならではの注意が必要な点が多々あります。お困りの場合は、お近くの飼料販売窓口にご相談いただければ幸いです。

表2 各種消毒薬の常温・低温下での除菌率

種類	時間	常温下	低温下
過酢酸	10秒	>99%	>90%
	30秒	>99.9%	>99%
塩素剤	10秒	<90%	>90%
	30秒	>90%	>90%
アルデヒド	10秒	>90%	<90%
	30秒	>99%	<90%

「畜産の研究」(2015)、69巻5号、p.417-419より引用



豚

豚舎内におけるネズミ対策

ネズミは病原体の伝搬だけでなく、食害や排泄により豚舎設備に被害をもたらします。特に冬場の豚舎内は外より暖かく、餌も豊富にあるため、ネズミの楽園となります。ネズミは気温低下とともに豚舎内へ侵入するため、冬を迎える前の今の時期からネズミ対策を行いましょう。 **養豚研究室**

ネズミの種類と棲息場所

豚舎で見かけるネズミは主にドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの3種類が知られています(表1)。

ネズミ対策は、①侵入経路や隠れ場所をなくす②モニタリング③毒餌や罠の設置の流れで行います。

①豚舎の外からの侵入経路や隠れ場所をなくす

豚舎内にネズミが侵入しないように対策することが重要です。豚舎の壁や天井裏の穴、扉下の隙間などの侵入経路を塞ぎ、侵入可能な隙間をなくしましょう。豚舎まわりは草刈りを行い、ネズミが棲息しにくい環境を作ることも大切です。また、豚舎内外に放置された不要な物品はネズミの住み処となるため、こまめな整理整頓を行い、ネズミが隠れる場所をなくしましょう。

②豚舎内における

ネズミのモニタリングを行う

ネズミの種類によって行動範囲は変わるため、適切な防除計画を立てる上でモニタリングは非常に重

表1 ネズミの種類と生態

種類	体長	棲息場所	行動
ドブネズミ	20~25cmで大型 尾が体長よりも短い	下水やどぶなど水の多い環境	平面的行動で上下移動はあまりしない。屋内の低い場所で棲息。
クマネズミ	15~20cmと中型 尾が体長よりも長い	天井裏、壁内など	パイプ、柱を垂直に移動するなど立体的行動が得意で性格は臆病。
ハツカネズミ	5cmほどと小型 尾が体長と同等か短い	豚舎内や、草地などの屋外	平面的行動で上下移動はあまりしない。わずかな隙間で侵入でき、湿気に強い。

要です。

表1、2を参考に豚舎内の見回りを実施し、ラットサイン(糞などのネズミの痕跡)はないか確認します。特に冬場、ネズミは暖かい天井裏を好むため、忘れずに点検をしましょう。モニタリングを行う際は、同時に清掃も実施し、次の点検時に糞などの新しい痕跡を見逃さないように心がけましょう。ある農場では、半月に一度モニタリングを行い、新たなネズミの痕跡がないか確認します。ネズミを捕獲した際は、種類や場所の情報共有を行い、こまめに対策を講じることでネズミの防除に成功している事例もあります。非常に手間のかかる作業ですが、自分たちでモニタリングすることで防除費の削減だけでなく、農場でのノウハウの蓄積にもなりますので、ぜひ取り組んでみてください。

③毒餌、捕獲罠を設置する

モニタリングにより、豚舎内にネズミがいると判明した場合、毒餌や捕獲罠の設置が必要になります。毒餌を使用する上で最も重要なことは、ネズミに食べてもらうことです。農場ごと

にネズミの好みは異なるため、毒餌の配合に工夫が必要ですが、一般的に殺鼠剤と豚用飼料、お菓子、砂糖、食用油などを混ぜて作ります。ネズミは人のにおいを嫌うため、餌を混ぜる際は手袋を着用しましょう。アルミトレイの上に毒餌をまく、新聞紙で毒餌を包む等の設置方法があります。

捕獲罠にも種類があり、中でも粘着板は他の罠と比べ、準備や設置が楽です。一方、ネズミをおびき寄せる罠ではないため、ネズミの通り道に多く設置する必要があります。また、ほこりや虫が付着すると捕獲できないため、汚れに応じて定期的に交換しましょう。毒餌や捕獲罠は、②で確認した場所に設置します(図1)。なお、毒餌は豚にも中毒症状を引き起こすため、豚が口にしない場所かどうか注意して設置してください。

表2 チェックシートの例 モニタリングの際に便利

豚舎	チェック項目	備考
妊娠舎	ネズミの姿を見かける(昼間)	天井裏でネズミの糞を発見
	ネズミの姿を見かける(夜間)	
	鳴き声が聞こえる	
	走る音がする	断熱材にかじり跡
	ネズミの糞を見かける	
	足跡がある	
身体をこすりつけた跡がある	}	
かじり跡がある		

写真1 人目のつかない隙間やネズミの通り道に設置する



肉用鶏農場における冬場の温度管理の改善事例について

外気温の影響を受けやすい開放型の鶏舎では、気候に合わせて換気方法や保温方法を適切に調整しないと生産成績に大きな影響を与えてしまいます。今回は肉用鶏農場における冬場の飼養管理、特に温度管理の重要性についてご紹介いたします。

1 管理の難しい開放鶏舎

この数十年で養鶏場の大規模化が進み、それにともない大型のウインドウレス鶏舎も増えてきました。ウインドウレス鶏舎は密閉性が高く、換気管理を機械で制御できるため、外気温の影響をあまり受けずに

年中一定の温度で鶏を飼うことができます。一方、開放型の鶏舎は外気温の影響を受けやすいため、季節ごとに換気方法や保温方法を適切に調整しなくてはなりません。温度管理に失敗すると生産成績が顕

著に低下することがあります。

そこで今回は、冬場に生産成績が低下する肉用鶏農場において、飼養管理の見直しのみで成績を大幅に改善した事例をご紹介します。

2 農場の問題点

本農場は冬場の生産成績が低く、育成率は90%以下、出荷体重も3.0kgを下回ることが多々ありました。

鶏舎の中は寒く、敷料の泥濘化が多くの鶏舎で見られたので、原因探索のため、くみあい飼料の営業担

当者ととも環境調査を行いました。

環境測定は当年3月に実施し測定時の外気温は12°Cでした。

図1は、4日齢(舎内温度約20°C)でチックガード内の様子を赤外線カメラで写した画像です。保温状態が悪いため、ブルーダーの真下は40°C近くあるにもかかわらずまわりの敷料は20°Cもありません。

図2は15日齢(舎内温度約20°C)でチックガード拡張後の様子です。鶏舎壁側が寒いので鶏が広がらず、ブルーダーの真下に固まったままです。写真1は、46日齢(舎内温度約16°C)の鶏舎の様子です。敷料の泥濘化が進んでいます。特

飼養形態:開放鶏舎
飼養羽数:約35,000羽(約3,000羽/鶏舎)
飼養期間:初生ビナ~約70日齢まで

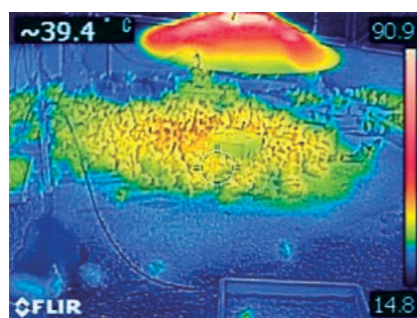


図1. 4日齢のチックガード内の様子(赤外線カメラ)

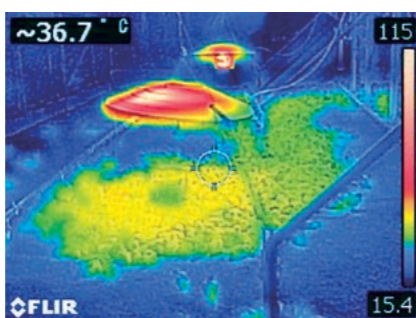


図2. 15日齢のチックガード内の様子(赤外線カメラ)



写真1. 46日齢の鶏舎。敷料の泥濘化が進んだ様子



写真2. 67日齢の鶏舎。敷料が泥濘化



に壁側が酷く、それを避けようとして鶏舎中央に鶏が固まっていた。

写真2は、67日齢(舎内温度約15°C)の鶏舎の様子です。鶏舎全

体が泥濘化し、鶏の休息場所がなくなっています。

環境測定の結果、飼養期間を通して一般的な肉用鶏の適正舎内温度

を下回っていたことが分かりました。このような環境状態であったため、鶏の状態も悪く出荷体重は3.0kgに達していませんでした。

3 冬場に敷料の状態が悪くなる原因

暖かい空気が冷えた物体に触れると、表面に結露が発生します。これは水蒸気を多く含んだ暖かい空気が冷やされることによって水蒸気を保持することができなくなり、液体

の水として現れてしまうからです。この現象は敷料においても見られます。鶏舎の壁から侵入した冷気が暖かい敷料に当たると敷料表面が冷え、そこに触れた空気中の水蒸

気が露になります。結果的に敷料が濡れてしまい、泥濘化につながります。このことから敷料の泥濘化を防ぐためには鶏舎内、特に敷料を冷やさないことが重要になってきます。

4 鶏舎の保温力を高める

鶏舎内を効率的に保温するためには、壁と鶏の間に空気の層を作ることが必要となります。

換羽完了(約35日齢)までは農業用ビニールを用いて鶏を囲いました(写真3)。壁側は二重カーテン構造とし、空気の層を作ることで保温効果を高めます。暖気は天井近くにたまるため、扇風機で空気を攪拌します。これにより舎内温度、敷料温度を安定して30°C以上に保つことができるようになりました。

また、チックガードの拡張は鶏舎壁際まで一気にせず、ビニールカーテン内で行うよう変更しました(写真4)。壁側のビニールカーテンはチックガード拡張時に移動できるよ

うに、3段階のレールを作成しています(写真5の①、②、③の順)。換羽完了(約35日齢)を目安に鶏舎入口側のビニールカーテンを撤去し、ガードを最大まで拡張します。このほかにも1日2回行っていた鶏舎

巡回を、鶏をこまめに動かすために4回に増やしたほか、敷料の追加や切り返しを適宜行うようにしました。



写真3. 二重カーテンで空気の層を作った様子



写真4. ビニールカーテン内でチックガードを拡張



写真5. 3段階のレールで可変性をもたせた

5 対策後の状況

表1は飼養管理改善後の生産成績です。改善に取り組んだ冬は、出荷体重・育成率ともに過去最高の成績を出すことができました。今回の対応で飼養管理の重要性を理解していただき、農場全体の管理レベルが底上げされました。その

結果、それ以降も同等の成績を維持しています。

冬場の生産成績が振るわない場合、問題を解決するには根本的な原因を探る必要があります。ワクチン接種や投薬を行っても成績が改善しない場合は、一度飼養管理面

表1. 冬場の成績の推移

	体重(kg)	出荷日齢	育成率(%)
前年冬	2.9	74	89.1
当年冬	3.25	73	95.6

に穴がないか確認することを推奨します。

飼料生産、繁殖、肥育、加工販売まで 「宮崎牛」生産販売で地域貢献目指す



広くファンを持つ牛商丑力のロース

原油、飼料などあらゆる資材の価格が高騰する“畜産危機”の情勢下でも、和牛の出荷頭数を増やして力強い存在感を見せているのが宮崎県小林市の牛商丑力株式会社だ。
 地の利を活かした自給飼料の生産と繁殖、肥育の一貫経営から、生産した和牛の加工・販売まで手がけることで経営力を強化。「小林市産和牛」の認知度向上を通じて地域経済の活性化にも貢献している。

自然豊かな畜産王国 地の利を活かし循環型農業

宮崎県南西部の中山間地域にある小林市は、和牛生産が盛んな県

内でも指折りの牛飼いが名を連ねる地として知られる。「和牛のオリンピック」と呼ばれ、5年に一度開かれる全国和牛能力共進会の前回2017年大会では、同市産は最

高位の名誉賞（内閣総理大臣賞）を獲得。今年10月に開かれた第12回大会でも3部門で県代表として出品された。

この地で和牛生産を営む牛商丑力は、名峰・霧島山麓の自然豊かな山あい繁殖牛130頭、肥育牛880頭、育成子牛50頭、経産肥育牛80頭を飼養する。創業は1958年。先祖が山麓を180m掘削して引き込んだ湧水を活用し、地の利を活かした畜産業を営んできた。



【取材協力】
 牛商丑力株式会社
 宮崎県小林市細野3562-1

- ① 豊かな水量を誇る湧水
- ② 霧島山を望む牛商丑力の牧草地
- ③ 開放型の牛舎
- ④ 粗飼料を食む母牛と育成中の子牛
- ⑤ 新たな牛舎建設のため、整地も順次行っている

緑濃い森林に囲まれた牛舎の周辺に自社の牧草地20haが広がる。ここで牧草を年4、5回収穫し、粗飼料とする牧草のほぼ100%を自給する。モットーは「土づくり、草づくり、牛づくり、人づくり」。化学肥料や除草剤は使わない。代表の富永正久さんは「牛の排せつ物を土に返し、そこで育った牧草を牛に与えることのできる循環型農業が成り立っている」と話す。

攻める経営で起死回生へ 逆境下に牛を増頭

コロナ禍、ウクライナ情勢、記録的な円安…と世界規模での情勢悪化を受け、畜産業界は今、飼料代や光熱費などあらゆる資材のコス



確固たるポリシーをもって経営する代表取締役・富永正久さん

ト高により経営が立ち行かない状況に陥っている。同社も飼料代が月200万円上昇し、採算性は悪化の一途をたどる。正久さんは「経験したことのない苦境。我々の世代が生きていく中で、最後の『ふるい』にかけられている」と顔をゆがめる。

その中で勝機を見出しているのが、目下の子牛の価格下落。「今年は牛を100頭増やす。来年も100頭増やす。牛を入れる場所がなければ新たに建てる」と「攻め」の姿勢を崩さない。離農する農家も増える、厳しい淘汰の時代。「ビジョンを持ったら、その通り進めていくのみ」。先を見据えて決断し迷いなく突き進む毎日だ。

牛飼いで社会に貢献 社員の意欲向上を重視

正久さんが先代から経営を引き継ぎ、酪農から和牛生産に転換したのは45歳の頃。以来、着実に経営規

模を拡大し続けてきた。「品評会に出品するような技術はないが、売上最大、経費最小を徹底し、継続した勤勉と誰にも負けない努力をしてきた」と胸を張る。現在も毎晩10時半から1時間半、牛の見回りを



1 和気あいあいとした牛商丑力のスタッフの皆さん
2 若手スタッフがモチベーション高く働く同社
3 宮崎牛の次世代の担い手のひとりとして、牛商丑力で修行中の瀬戸山航さん



欠かさず続けている。経営を支える柱が、「うまい牛肉を腹一杯食べていただくことで社会に貢献する」という経営理念だ。「理念を明確にすることで、私も従業員も仕事の目的とやりがいを意識して仕事に取り組めるようになった」と感じている。

正久さんは、働く人の精神的な豊かさ、物質的な豊かさのバランスを重視する。近年、取り入れたのが報奨金制度。牛を出荷した際、従業員が自身で管理した牛の格付け成績に応じて報酬を出す。突発的な仕事などでも臨機応変に手当てを出す。「牛の管理を自分事として取り組んでくれるようになった」と正久さん。従業員は瀬戸山航さん(22)は「将来は実家の牛飼いを継ぐ予定で、とても勉強になっている。報奨金はボーナスとして手取りが増えるので助かる」と意欲向上につながっている。

牛飼いと牛買いで 地域支え

同社の〆お膝元である小林地域家畜市場。和牛子牛上場頭数は年間1万4364頭(2021年度)で、「全国でも5本の指に入るトップ市場」だ。質の高い牛が数多く上場

崎牛」の普及を進めながら地元で「小林市産」も伝えていきたいと考え、市の支援を受けながら「小林市産和牛」の知名度向上を通じた地域活性化のプロジェクトに挑戦した。「生産者が主体となり、地元産の和牛を直売するとともに情報発信す

る拠点を整備する」という構想で、ふるさと納税とクラウドファンディングを活用してインターネットで支援者を募集。全国から400万円近くの寄付が集まった。同年11月、宮崎自動車道の小林インターチェンジに隣接する物産館「四

季彩館」の一角に食肉加工場を整備。「旨い牛肉を腹一杯」と筆文字で書いた巨大なのれんを店先に掲げた直売店「牛商富永」をオープンした。切り盛りするのは息子の征駿さん(28)。岡山県の酪農大学を卒業して家業に入り、繁殖牛の管理を担っ



【取材協力店】
牛商富永
宮崎県小林市南西方1191-1

- 4 富永正久社長と息子の征駿専務
- 5 富永社長とともに全国でトップクラスの和牛生産を支えるJA宮崎経済連の瀬尾康太さん(左)とJA全農福岡畜産生産事業所の井上直俊さん(右)
- 6 真剣な表情で美しく牛肉を切り分ける富永征駿専務
- 7 部位ごとのおいしい食べ方を提案する「提案型販売」を実践
- 8 真空パックされた商品



JAこばやし肥育牛課の山口貴司課長

されることから全国から購買者が訪れる市場として定着している。

生産者の高齢化などで子牛の生産頭数が頭打ちとなる中、着実に生産規模を拡大してきた同社は、同市場の上場頭数の安定維持に二役買っている。また、同社は子牛を買い支える購買者としての存在感も大きい。家畜商の免許を持つ正久さんは「地元の牛を積極的に購入し、産地を盛り上げていきたい」と話す。同JA肥育牛課の山口貴司課長は「子牛の購買頭数や肥育牛の実績など、小林市産・宮崎牛の底上げに貢献してもらっている」と高く評価する。

地元産和牛のファン獲得へ 自家生産した牛肉を直売

同社は2021年、新たな取り組みをスタートした。自家生産した和牛の加工販売だ。「宮崎牛」は有名でも、「小林市産」は消費者にはほとんど知られていないのが実情。「宮

できた。食肉加工はもとより食品分野への従事は初めてだが、「もともと、育てた牛の直売をしたいと思っていた」と前を向く。ここでは「宮崎牛」とともに自家生産の牛肉を「富永和牛」と銘うって販売している。霧島山麓の湧き水で育てた牛、堆肥を還元した牧草を食べた牛…、育てた牛への思いやストーリーは無限にある。そして何よりも「地元の和牛を知ってもらい、地域を元気にしたい」という思いがある。

店舗自体は、市の中心地から離れた不便な立地で多くの来客は望めないのが実情だが、店頭販売がメインではない。征駿さんは「自ら牛を育てているのが強み。オンラインショップやSNS(会員制交流サイト)など販路は開拓できる」と考えている。

事業スタートから1年近く。地元の個人客や外食、宿泊業者との直接取引やインターネット通販が堅調だ。ふるさと納税のリピーターも増えている。今後は和牛を1頭買いし、部位ごとの特徴や味わい方を伝える提案型の販売を強化する。征駿さんは「家庭でも外食店のようにおいしく食べられるよう伝え、和牛の食文化を広げていきたい」と目を輝かせる。

株式会社STPFの年表

- 1985年 進さん就農
- 2007年 株式会社STPFに法人化
- 2008年 卓人さん就農
- 2011年 スリーセブン方式を導入。肥育豚舎を新築
- 2013年 宗一郎さん就農
- 2021年 香川県畜産共進会で8回目となる農林水産大臣賞を受賞
- 2022年 宗一郎さんが3代目社長に就任予定



太田宗一郎さん



太田卓人さん

【農場データ】

農場名:株式会社STPF
住所:香川県綾歌郡綾川町東分甲2523
飼養頭数:母豚105頭



1 2スリーセブン方式を導入した豚舎
3「脂身も甘くておいしい」と人気の「讃岐もち豚」 4衛生的に保たれた豚舎内
5JA西日本くみあい飼料株式会社が「讃岐もち豚」専用に米粉やパン粉、オリブ油粕などを配合した飼料
6父・進さん④と母・教子さん

宗一郎さん、卓人さんへ
エール!

エールを送る人
太田進さん

一番大切なことは、顧客を想像することだと思います。顧客とは消費者はもちろん、餌や豚を運んだり販売したりする養豚にかかわる人全てのことです。その方々のおかげで、私たちが育てた豚が食卓まで届いています。このことを忘れないでほしい。利益追求だけになるのではなく、これからもおいしいものでたくさんの幸せをつくってください。



太田宗一郎さん⑥と卓人さん

兄弟二人三脚で規模拡大や6次化に挑戦

香川県綾川町にあるダム湖のほとりで3代にわたって養豚を営んできた株式会社STPFの太田さん一家。大根と交換した一頭から始まった養豚は今、大きな転換期を迎えています。長年、県の養豚と地域農業をリードしてきた太田進さん(65)から今秋にも長男の宗一郎さん(38)が経営を引き継ぐ予定で、次男の卓人さん(37)との新たな挑戦がスタートします。

太田さん一家は現在、母豚105頭を飼養し、年間約2600頭を産直豚「讃岐もち豚」として出荷しています。進さんが、母が始めた養豚を受け継ぎ、妻・教子さん(65)と発展させてきました。2007年に法人化し、08年には卓人さん、13年には宗一郎さんが就農。既に息子2人が中心となり、家族4人で飼養しています。

生産する「讃岐もち豚」は、JA香川県と生産者、JA西日本くみあい飼料株式会社が試行錯誤を重ねてブランド化に成功した産直豚。1995年からコープかがわの店舗を中心に販売され、人気商品として定着しています。その名の通り、やわらかいモチモチとした食感と脂身の甘さが特徴です。現在は県内の4戸

からなる「産直豚生産流通部会」が共通の飼養衛生管理基準に基づいて飼養し、安定的に出荷しています。

父の背中見て、迷いなく就農 前職の販売経験が支えに

早ければ今秋にも進さんから経営を継承する宗一郎さんは、幼い頃から就農を心に決めていました。「父の背中を見ていたので、就農に迷いはありませんでした」と話す宗一郎さん。大学卒業後は就農を見据えて、コープの精肉コーナーを担当する子会社で就職。接客・販売の経験や当時できた人脈が今に活かされており、「今では前職時代の同僚や上司が大事な取引先となり、仕事がとてもやりやすくなっています」と話します。「就農してから、この仕事を絶対

やめてはだめだと強く実感しました。もしやめたら消費者が地元産の豚肉を食べられなくなります。新規就農がすぐにはできないような業種ではなく、だからこそ、今後も県民の食を支える責任を果たしていきたいと思っています」と力強く話します。

「スリーセブン方式」導入 働き方改善し、余裕のある経営へ

STPFは2011年に飼養方法を一新し、中四国・近畿で初めて「スリーセブン方式」を導入しました。導入を決断した進さんは「メリットしかなかった」と断言するほど、出荷頭数が増加し、日々の管理も楽になったといえます。

卓人さんも「導入前後の豚を比べると明らかに違う」ことに驚きました。スリーセブン方式は2週間ほど空舎期間が出るため、この間に豚舎の洗浄と乾燥、消毒を集中的にできるのが特徴です。「清潔な豚舎で育つ豚は健康的で、離乳してからの死産率も減少。母豚を減らしても出荷頭数が増え、更に餌食いが良いので出荷日齢が1カ月ほど早まりました」と話します。宗一郎さんも「豚舎での作業がまとまることで無駄な手間が削減でき、先が見えるような

働き方ができるようになりました」とメリットを実感します。新しい飼養方法に切り替えたことで、1母豚あたりの年間出荷頭数は3割増の26頭に増加。更に作業の効率化も実現したことで、休日を設けることもできるようになりました。

ダム拡大で農場を移転 10倍規模に拡大目指す

経営継承やその後の規模拡大を見据える中、大きな課題にも直面しています。ダム湖の拡大にともない、農場を移転しなければならぬことが決まっています。町にも協力してもらい、町内での移転先を探す日々。宗一郎さんは「将来的なことを考えると、移転は少しでも早いほうが良いし、移転先では規模拡大を前提にした。町や全農、西日本くみあい飼料にも協力してもらい、現在の10倍規模を目指します」と前を向きます。

就農前に1年間、群馬県にある公益社団法人全国食肉学校で食肉加工について学んだ卓人さんは、将来的にはベーコンなどオリジナル商品の開発・販売を目指しています。「食を通して消費者に幸せを感じてほしい」と夢を語ります。

全農養鶏セミナー2022

オンラインにて配信 全国で合計120名の方が参加

2022年9月12日~30日にかけて、「全農養鶏セミナー2022」をオンラインで配信しました。全国で合計120名もの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。配信したセミナーの概要をご紹介します。

1 飼料原料情勢及び配合飼料安定基金の情勢



全農本所
穀物外為課課長
鮫嶋 一郎



全農本所
蛋白原料課
関根 啓右

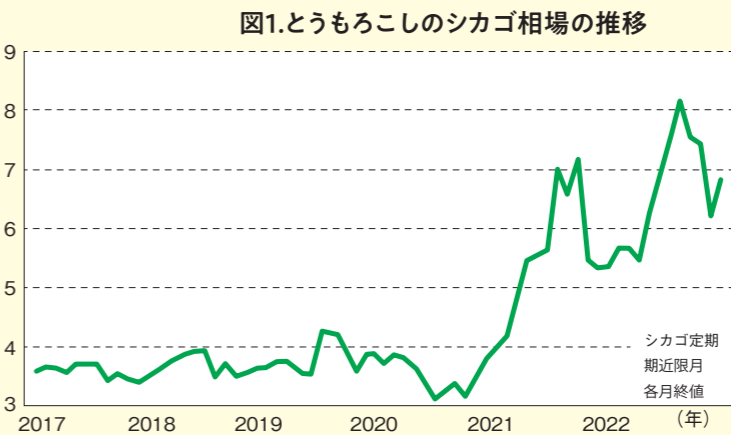


全農本所
推進・商品開発課
江崎 尚二

とうもろこし
とうもろこしのシカゴ相場は、20年後半から中国の国内需要増にと

もなう輸入量増加を背景に高騰しました。そこへ追い打ちをかけるように、22年2月にはロシアによるウクライナ侵攻を受けて、更にシカゴ相場が高騰する事態となりました(図1)。ウクライナは世界有数のとうもろこし輸出国であり、ウクライナからの輸出入量の減少が世界的な需給混乱を招きました。その後6月からやや軟調傾向だったシカゴ相場は、生育状況悪化の懸念を受けて、直近では再び上昇傾向にあります。

大豆粕
大豆粕の相場については、原料となる大豆の相場だけでなく大豆油の需給にも左右される局面が近年増えています。22年6月には、大豆の



シカゴ相場が下落する一方で、大豆油の価格も下落したため、搾油量の減少にもなっており大豆粕発生量が減少。大豆粕の相場は堅調に推移することとなりました。直近では高温乾燥の懸念による大豆相場の上昇を受けて、大豆粕相場も上昇傾向にあります。

2 鶏卵の需給動向と今後の見通しについて



JA全農たまご(株)
東日本営業本部
第1営業部鶏卵課課長
中田 純司

需要面
家計消費はコロナウイルスの感染拡大にもなう巣ごもり需要の増

3 「ちくさんクラブ21」における優良事例紹介



全農
飼料畜産中央研究所
養鶏研究室
柴田 拓起

「ちくさんクラブ21」は1999年に初回号が発行されて以降、さまざまな現場での優良事例や研究所からの技術情報を発信してきました。22年4月からはWebでも閲覧できるようになり、より活用しやすい畜産情報になりました。

供給面
生産コスト増加を受けて、餌付羽数はやや低い水準で推移しています。一方で22年の鶏卵生産量は、高病原性鳥インフルエンザ発生による生産減の影響が大きかった21年生産量257万tを上回る260万t前後と予測されています。

生産コストが上昇する中、販売価格への転嫁が今後の重要な課題となる一方で、消費拡大と需要に見合った生産量の維持によって、需給バランスを保つことも重要となります。

4 現場での衛生対策事例及び近年の疾病動向



全農 家畜衛生研究所
クリニック東日本分室
小川 哲郎



全農 家畜衛生研究所
クリニックセンター
相馬 茉莉絵

冬に増える鳥マイコプラズマ症

農場現場での衛生対策事例として、冬に発症が多い鳥マイコプラズマ症(MG)の対応事例を紹介しました。MGは、寒冷ストレスや換気不足によるアンモニアやほこりの増加によって発症するといわれており、予防として適切な飼養管理、衛生対策が求められます。実際にMGの感染が疑われた農場に対して、40日齢でのMG生ワクチン追加及び抗体価の確認、アウト後の洗浄消毒の徹底、日齢が若い鶏群から作業を行うといった作業手順見直し等の対応を実践した結果、MG発症による産卵率低下は見られなくなりました。

高病原性鳥インフルエンザ

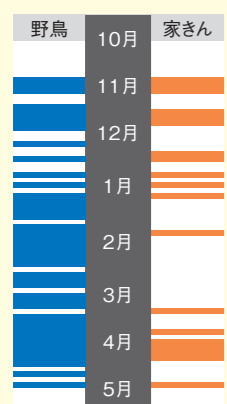
21年度シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生は、家きんで

12道県25事例(殺処分羽数約189万羽)、野鳥で8道府県107事例にも達し、11月から翌年5月までと長期にわたって発生しました(図2)。

ニューカッスル病
身近なカラスからも多数検出されており、国内の広いエリアで多量のウイルスが蔓延していると考えられます。現在も海外では発生が続いているため、今年度も野鳥がウイルスを持ち込むリスクは高く、野鳥や野生動物の舎内侵入を防ぐなどの対策を早めに行うことが重要です。

また、法定伝染病に指定されているニューカッスル病については衛生管理技術の向上、ワクチンの普及により、国内での発生件数は大幅に減少しました。しかし、依然として海外では毎年のように発生報告があり、国内にウイルスが持ち込まれるリスクは否定できません。常に鶏の免疫を維持しておく必要があります。日々の衛生管理と適切なワクチン接種を継続することが重要です。

図2.21年度シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生時期



鳥インフルエンザから日本の養鶏を守る

今年もしっかり備えて
予防に努めましょう

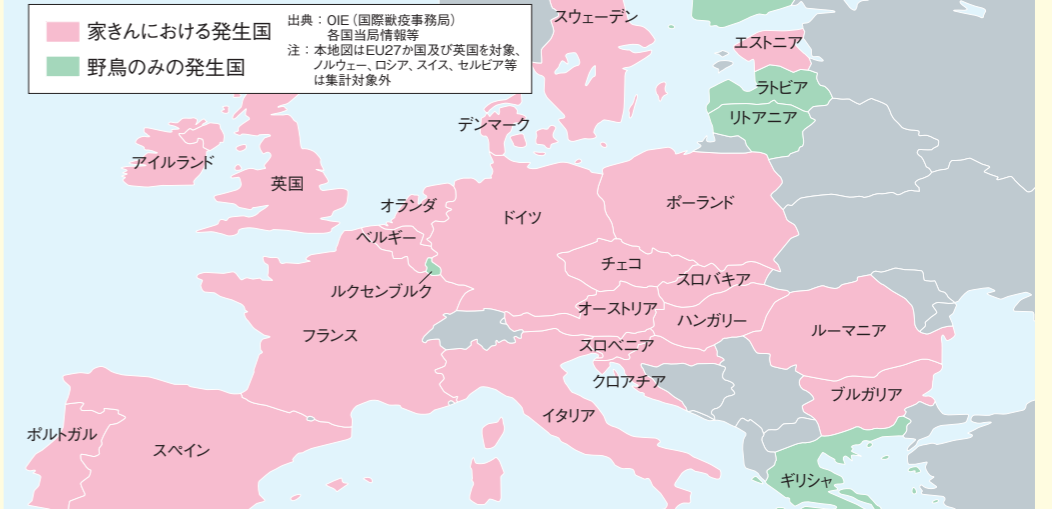
9月に農林水産省の専門家会議が開かれ、ヨーロッパで過去最大規模の発生が起きていることから、今年も国内で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI 以降は、AI)が発生する可能性が高いと呼びかけました。前回の冬の発生では、渡り鳥ではないカラスや猛禽類の感染が多く見られ、野鳥に感染が広がっている可能性があります。

今年はすでに神奈川県と福井県でハヤブサ、宮城県でマガンから過去に例のない早さでウイルスが見つっています。

■ヨーロッパでの発生件数(2021年10月～2022年8月)

英国	野鳥359件 家さん124件
ベルギー	野鳥102件 家さん7件
フランス	野鳥158件 家さん1416件
デンマーク	野鳥153件 家さん11件
オランダ	野鳥485件 家さん67件
ドイツ	野鳥890件 家さん78件

欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年8月26日時点)



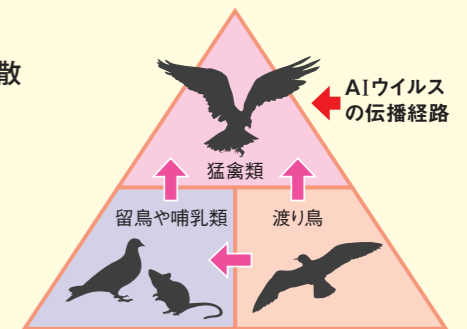
農林水産省 発表資料より

■渡り鳥が飛ぶルートのイメージ 渡り鳥がウイルスを持ち込むルートはいろいろあります

- 北方ルート シベリア→サハリン→北海道
 - 中間ルート 中国→太平洋→東北・東日本
 - 南方ルート 中国→朝鮮半島→西日本
- さらに日本国内を縦断してウイルス拡散

■昨年の流行時には猛禽類やカラスで感染が多発

ワシやタカ、カラスは、AIに感染した獲物や死体を食べてAIに感染します。自然の野山に広くAIウイルスが広がっている証拠です。スズメやネズミもウイルスを持っている可能性があります。



■農場のある県の猛禽類やカラスからAIが出たら注意が必要

環境省ホームページの野鳥感染情報を定期的にチェックしましょう。湖の野鳥の数も発表されていますが、豪雪地では野鳥が凍った湖から沿岸等に移動することがあります。

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/



■昨年は、屋外で飼育されていたエミューでもAIが続発しました。

ウイルスはどこにでも降ってきているので、放し飼いは絶対に避け、特にカモやハクチョウなどが農場の上を飛んでいないか気をつけましょう。鶏舎の入気側は除草、片付け、石灰でウイルスの空気侵入を防ぎましょう。

少しでも外に出た長靴は踏込消毒槽よりも履替えです。外を歩いたら手袋や服は鶏舎ごとに交換しましょう。

アルカリ性に注目した鳥インフルエンザ対策を！

既に多くの養鶏場ではできるかぎりの鳥インフルエンザ対策を行っていると思います。今回は、既に広く行われている消毒作業にちょっとひと手間をプラスして、消毒の効果を上げる方法をご紹介します。

消石灰の効果を手軽に「リトアクア」でチェックできる

消石灰は強いアルカリ性で、高い消毒効果を発揮します。空気中や水中の二酸化炭素と反応して次第に効果が無くなりますが、効果が下がっても見た目は白い粉のままです。鶏舎のまわりや通路に散布した消石灰に「まだ効果があるのか？」

「次、いつ散布すればよいのか？」「踏込消毒槽の消石灰をいつ交換すればよいのか？」など、迷った時に消石灰の効果を簡単にチェックできる試薬



リトアクアを消石灰に滴下してから青色になるまでの時間とpHの関係

pH12程度
(効果が十分見込める状態)

①瞬時に青色

pH>12
瞬時
判定:○

劣化していない消石灰が多量にある状態

pH11以下
(これから効果が急激に低下、もしくは既に効果が低下)

②10秒後の色は赤紫色、5分後青色

pH=11
10秒
判定:×

→5分→

消石灰分が少ない状態
これから短時間でpHは10未満になる

③滴下後しばらくは赤色
(※翌日には青色になっているので注意)

pH=10
20秒
判定:×

→5分→

消石灰はほぼ炭酸カルシウムに変化している状態

があります。消石灰有効性可視化材「リトアクア」は、消石灰に2〜3滴たらして10秒後の色を見れば消石灰の効果を確認できる試薬です(特許第6820575号取得)。すぐに色が青くなればアルカリ効果は持続されていますが、10秒ほどたっても赤みがある場合は効果が無くなっているののですぐに交換しましょう。

逆性石けん消毒液をアルカリ性に傾ける資材

逆性石けん消毒薬(ロンテクト等)は、安全性が高く、さまざまな細菌やエンベロープのあるウイルスに効果があるので広く使われています。しかし、低温環境下では効果が低下するため、冬に流行する鳥インフルエンザ対策に使う場合は工夫が必要です。対策として、逆性石けん消毒薬の溶液に苛性ソーダや苛性カリを加えてアルカリ性に傾けることで効果が上がりますが、これらは、水に入れると発熱して飛び散りやすいので安全面で問題があります。

「ファイナチュラルFNPパウダー」は、食品添加物の水酸化カルシウムを含む高純度・微粉末のアル



カリ性資材です。このパウダーを逆性石けん消毒薬の溶液にとかすことで薬液をアルカリ性に傾けて効果を高められるため、養鶏場や養豚場でも活用されています。また、鳥インフルエンザウイルスに対しては、逆性石けん消毒薬と強アルカリによる相乗効果も確認されています。

地肌に触れても高温やPHによるやけどの心配がなく、安全で使いやすい資材です。念のため、マスク、ゴーグル、手袋等を着用して作業を行って下さい。

お問い合わせ：株式会社 科学飼料研究所 動薬部販売企画課 027-347-3223

JACCネットの家畜疾病情報

■家畜疾病情報
<https://jaccnet.zenoh.or.jp/action/>



JA全農のJACCネットでは、家畜伝染病の最新情報や対策を発信しています。JA全農が制作した動画を、職員研修や日々の営農にご活用ください。

■【動画】消毒作業のポイント
<https://jaccnet.zenoh.or.jp/action/boekiWorkshop/>



■家畜疾病情報-鳥インフルエンザ
<https://jaccnet.zenoh.or.jp/disease/ai/>



国内で豚熱の発生が継続

効果的な防疫で拡大を食い止めましょう

【豚熱が関東で続発(2022年3月以降7事例発生)】

- **ワクチンを接種した農場でも発生しています。**
特にワクチンを接種する前や接種した直後の子豚で多く発生しています。
- 豚熱ワクチンは有用な対策資材ですが、**豚熱はワクチンを打てばかからない病気ではありません。**
- 豚熱発生を防ぐには、日頃の飼養衛生管理を徹底し、特にイノシシなど野生動物・野鳥の侵入を防ぎましょう！

【農場防疫の3つのポイント(鳥インフルエンザ・豚熱 共通です)】

① 病原体を入れない <ul style="list-style-type: none"> ● 人、車両は立ち入りを規制する ● 農場の入場記録をとる ● 飲水は飲用に適したものにする 川水などを使う場合は必ず消毒する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農場内に車両・重機を入れる時は必ず消毒する ● 立ち入り禁止の看板を設置する ● 畜舎の周囲に防鳥ネットを張る ● 農場に入る時は手を消毒し、専用の服・靴を使う
② 病原体を広げない <ul style="list-style-type: none"> ● 畜舎ごとに専用の服・靴を設置・使用 ● 毎日、家畜の健康観察と記録 ● ネズミやハエを定期的に駆除 	<ul style="list-style-type: none"> ● 畜舎ごとに踏込消毒槽を設置・使用 ● 畜舎が空になったら必ず清掃・消毒 ● 畜舎出入り時は手を消毒する
③ 病原体を増やさない <ul style="list-style-type: none"> ● 過密を避け、適切な密度で飼育する ● 畜舎を定期的に掃除する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 暑すぎ、寒すぎ、換気不足、すきま風 これらを避けた良い環境で飼育する

【イノシシの習性と検査状況】

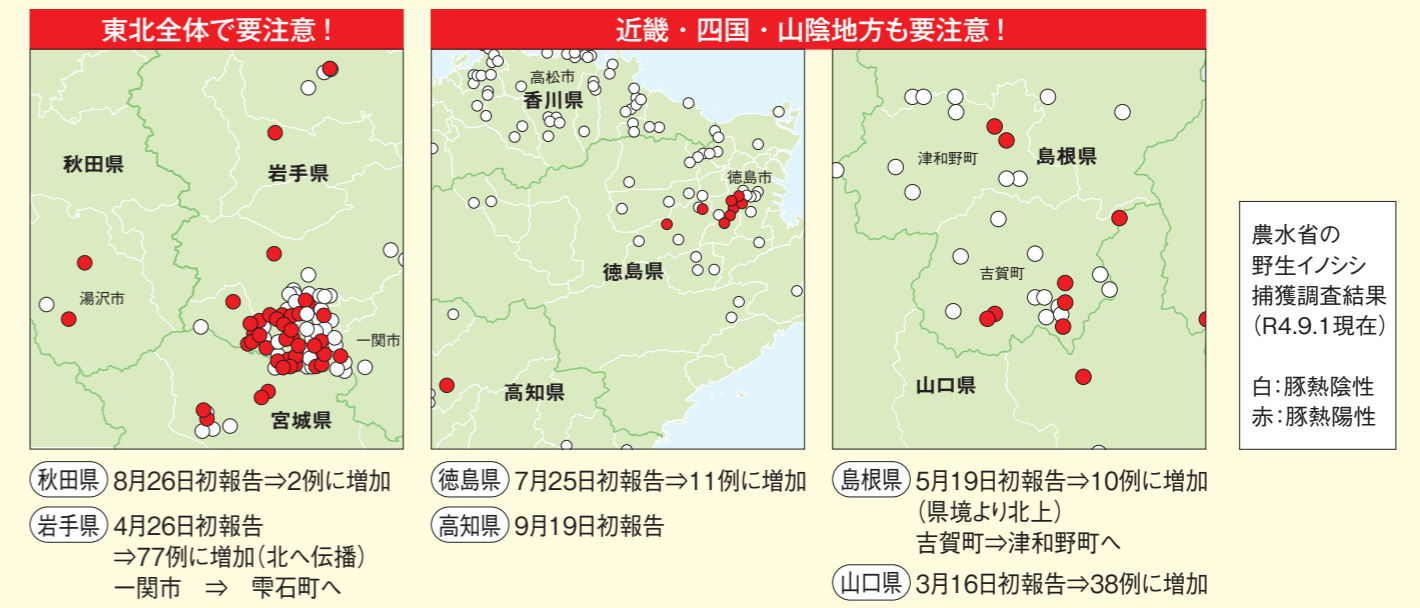
イノシシの習性
昼夜を問わず餌を求めて活動し、味が濃く甘いものが好物です。行動範囲は2〜3km四方で、定着と移動を繰り返します。警戒心が強く臆病で人前に姿を現しません。慣れると大胆不敵になります。学習能力が高く、餌が食べられると分かると何度も侵入を試みます。

■季節ごとのイノシシの行動
(冬眠はせず、年中活動しています)

冬	春	夏	秋
発情・交尾	出産・授乳		性成熟

豚熱発生農場の周辺では発生前に豚熱ウイルス陽性のイノシシが見つかっています。
農水省WEBページ**野生イノシシ検査状況**をチェックしましょう！

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar_map.html

配合飼料安定基金に関する J A全農の取り組み

全農の配合飼料安定基金は 補てん金の一括補てんを実施

全農の配合飼料安定基金は、高額の補てんに備えてメーカー積立金を上限いっぱい額まで積み立て、補てん財源の造成に努めてきました。その一方で飼料メーカーによっては平成30年度と令和3年度にメーカー積立を下げた影響で全農基金と比べて補てん財源に差があり、分割で補てんを行っているところもあります。

全農基金は4〜6月期のトンあたり9800円の補てん金を、従来のルール通り8月中旬に一括して補てんしました。その結果、生産者の実負担は1〜3月期と近いレベルにとどめることができました。

今後も高額の補てんが続きます。全農基金は生産者の資金繰りを支援するため、会をあげて補てん財源の確保に努め、引き続き補てん金を一括でお届けしてまいります。

全農の配合飼料安定基金への 継続契約を

高額の補てんが続いて財源が不足した場合、どのメーカーの安定基金も資金を借り入れて補てんを行います。全農基金は11月に行う7〜9月期の補てんから資金を借り入れて一括補てんを行います。

借入資金の返済には来年度以降の積立金の一部をあてます。生産者の皆さまに別のご負担をお願いするとはありませんのでご安心ください。今年の補てん金には過去の積立金だけでなく未来の積立金の一部も使われている状況をご理解ください。

したがって今年度、借入による一括補てんを行うためには、生産者の皆さまに来年度以降も従来通り全農基金でご契約いただくことがたいへん重要になります。

そのため来年度から借入金の返済が完了するまでの間は、令和4年度

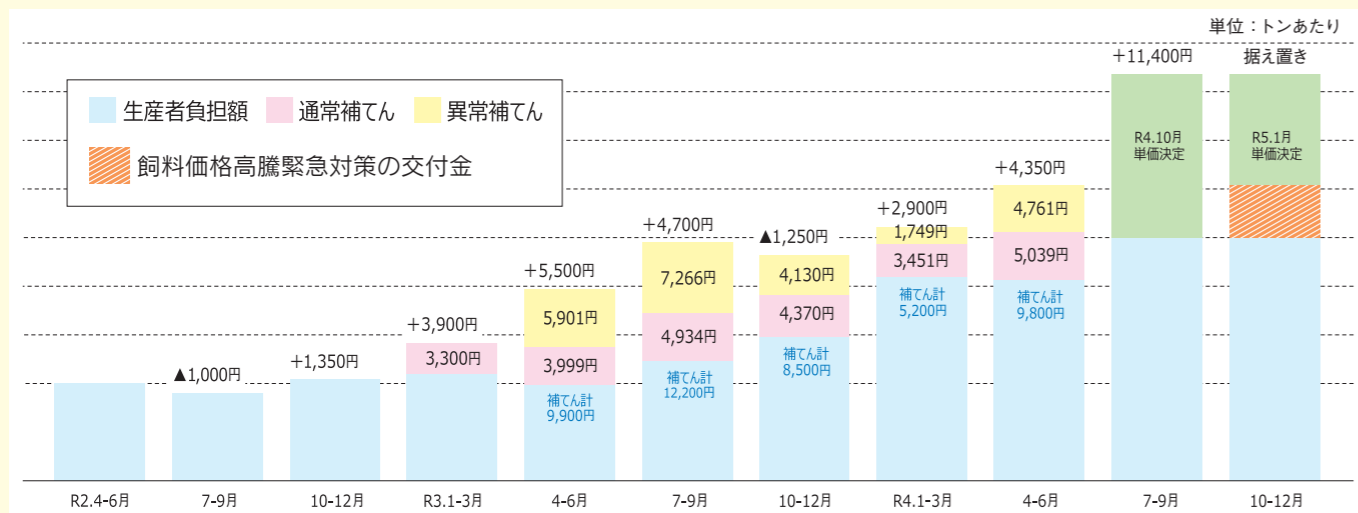
の80%を超える数量のご契約をお願い申し上げます(飼養規模の縮小などの合理的理由がある場合は除きます)。詳しくは配合飼料の営業担当者にお尋ねください。

国の飼料価格高騰 緊急対策

全農は令和4年10〜12月期の配合飼料価格について、7〜9月期価格を据え置くこととしました。あわせて国は7〜9月期と10〜12月期の補てん単価の差を独自に試算し、10〜12月期の補てん金と別にトンあたり6750円の交付金を出すことを決めました。

配合飼料の据え置き改定と、全農基金の一括補てん、国の交付金の3つを組み合わせると、10〜12月期に生産者が負担する飼料コストは大幅に抑えられる見込みです。

J A全農は引き続き、生産者の資金繰りを支援するため、国と協議しながら安定基金の運営に取り組んでまいります。





取り組み

酪農が果たす役割

牛乳・乳製品は栄養や吸収率に優れた食品であり、加工食品の原材料としても利用されるなど、私たちの食生活を幅広く支えています。

また、酪農は耕種農業が困難な山間地や寒冷地などの条件不利な地域でも、営農できるという特徴があります。草地利用や林間放牧による土地利用、荒廃農地の有効利用、雇用創出など、日本の国土の保全と里山の美的環境の維持、地域の活性化にも貢献しています。

さらに、牛は牧草や食品の製造過程で発生する副産物など、人が食べることのできない資源から食料を生産し、牛糞はたい肥として利用されるなど、資源循環の一部を担っています。

牛乳乳製品需給とその課題

生乳は例年、春先と年末年始に需給が緩和します。春先は牛にとって快適な気候のため、生乳生産が好調

になる一方で、ヒトはあまり喉が乾かないことや春休み・GWで学校給食がないため消費が少なくなり、生乳需給が緩和します。年末年始は、冬休みで学校給食がない上、お正月にはあまり家庭で牛乳が飲まれず、消費量が年間でも落ち込む時期のため、生乳需給が緩和します。

一方で、コロナ禍による急激な需要の停滞により、バター等を作る工場の受け入れ可能量を上回って生乳が供給されるおそれ（処理不可能乳の発生）が懸念されています。（表添付）

酪農乳業への理解醸成や実効性ある消費拡大の取組が重要となります。

新商品の紹介

J A全農は低迷する需要を喚起し、日本の酪農を応援したいという思いから、これまで2つの乳飲料を開発・販売してきました。第一弾としてミルクティ、第二弾としてカフェ・オレを開発し、そのどちらも牛乳を50%以上使用し、牛乳のおいしさを引き立てているというのが特徴です。（図添付）

図 牛乳を50%以上使用している商品を開発



この度、第三弾として新たな商品「抹茶ミルク」を販売いたします。本商品の発売を通じて、牛乳の消費拡大に貢献するとともに、酪農生産基盤の維持に向けて一丸となって取り組んでまいります。

牛乳消費拡大の

表1 飲用牛乳消費量の季節変動。年末年始の消費量が極めて低水準となる。

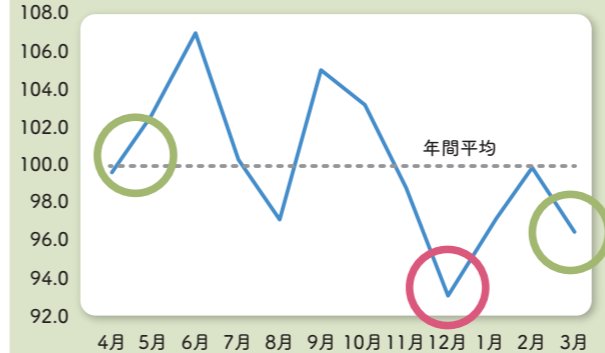
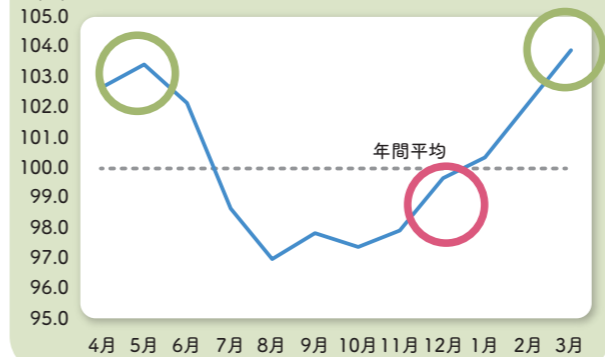


表2 生乳生産量の季節変動。春先に生乳生産が好調になる。



京都府産 宇治抹茶使用



抹茶ミルク

MATCHA MILK

牛乳 50% 以上使用

北海道産 乙h菜糖使用

全農酪農部 ホームページ



酪農&牛乳あるある川柳
蹴らないで 哺乳したじゃん 三年前
牛乳で 牛の背こえた 中学生
※Beaotto川柳コンテスト最優秀賞

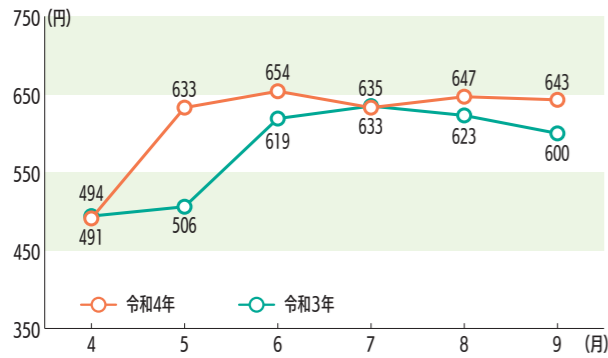
1ケース:275g×24本

豚肉

8月の全国肉豚出荷頭数は、1,321千頭(前年比99.7%)と前年並み。地域別出荷頭数を前年比で見ると、北海道107.1%、東北103.2%、関東97.8%、北陸甲信越104.8%、東海102.5%、近畿106.6%、中四国96.0%、九州・沖縄96.8%だった。全国と畜頭数の9月の速報値は、1,290千頭(同92.9%)と前年を下回る見込み。

8月の輸入通関実績は、豚肉全体で86.6千t(前年比110.7%、前月比104.2%)と前年を上回った。内訳は、チルドが33.9千t(同99.4%、同109.6%)、フローズンは52.7千t(同119.4%、同101.0%)となった。国別で見ると、チルドではメキシコが増加し、フローズンでは価格優位性のあるスペインに加え、メキシコ、米国、カナダからの輸入量が増加した。

豚枝肉「上」の卸売価格(東京食肉市場)



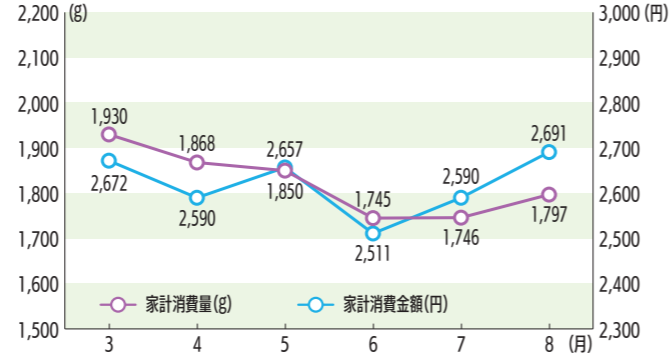
総務省発表の8月度家計調査報告によると、全国2人以上の1世帯あたり豚肉購入数量は1,797g(前年比94.8%)、支出金額が2,691円(同99.5%)となり、購入量は前年を下回ったが、金額は前年並みだった(※2019年度比:購入量110.2%、金額115.2%)。

9月の東京市場枝肉卸売価格(速報値)は、643円/kg(前年比107.2%)と前年を上回った。学校給食の再開やシルバーウィーク向けなどの需要の高まりに対して、気温の低下などから肉豚の生育が順調に進んだことで出荷頭数が増加したため、もち合いの展開となった。

10月の相場は、出荷頭数の増加が期待できる一方で、3連休や「全国旅行支援」による需要の増加によっては、需給が緩まない可能性があり、弱含みからもち合いを見込む。

【令和4年11月の相場予想】※東京市場 上物・税込600円

豚枝肉の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



牛肉

8月の成牛と畜頭数は、85.4千頭(前年比104.7%)と前年を上回った。内訳を見ると、和牛36.4千頭(同102.3%)と交雑牛19.6千頭(同110.6%)は前年を上回ったが、乳牛は11.9千頭(同92.6%)と前年を下回った。

8月の輸入通関実績は、全体で53.5千t(前年比99.5%、前月比102.9%)と前年並み。内訳ではチルド19.6千t(同83.8%、同100.2%)、フローズン34.0千t(同111.6%、同104.5%)となった。輸入相手国別では、米国と豪州は為替の影響から高値が継続しているため減少した。また、フローズンは、荷余り感があったことから一時的に日本向けが増加した。

総務省発表の8月度家計調査報告によると、全国2人以上の1世帯あたり牛肉購入量は508g(前年比84.2%)、支出金額が1,958円(同92.7%)となり、購入量・支出金額ともに前年同月を下回った(※2019年度同月比:購入量91.0%、金額105.7%)。

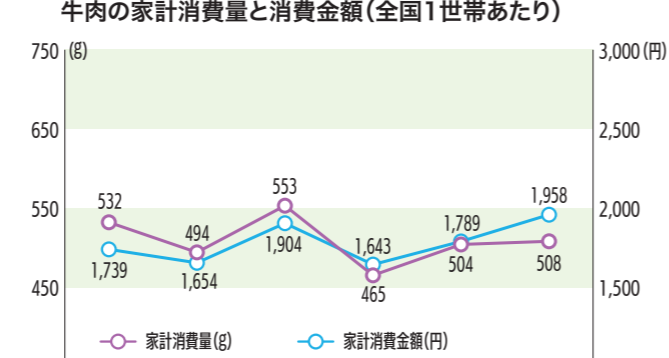
9月の東京市場枝肉卸売価格(速報値)は、和牛去勢A5が2,552円(前年比96.2%)、A4が2,273円(同99.0%)、交雑牛B3が1,492円(同99.9%)、乳牛去勢B2が949円(同95.6%)だった。相次ぐ食品の値上がりから量販店等での荷動きが弱いことに加え、シルバーウィークが天候に恵まれなかったことなどが要因と考えられる。

10月の枝肉相場は、末端消費は伸び悩んでいるものの、「全国旅行支援」の開始による宿や外食需要増加に加え、輸入牛肉の高値推移により国産牛へのシフトが一定数見込まれることなどから、和牛は強含み、交雑牛はもち合いから強含みで推移する見通し。

財務省が9月29日に公表した貿易統計によると、8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から1.8千t増の47.4千t(前年比0.4千t増)。国別ではブラジルが1.5千t増、タイが0.2千t増となっている。8月実績は前月輸入量より増加し、9月以降も増加が予想される一方、価格は徐々に下げ基調となっている。

【令和4年11月の相場予想】※東京市場 税込

牛肉の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



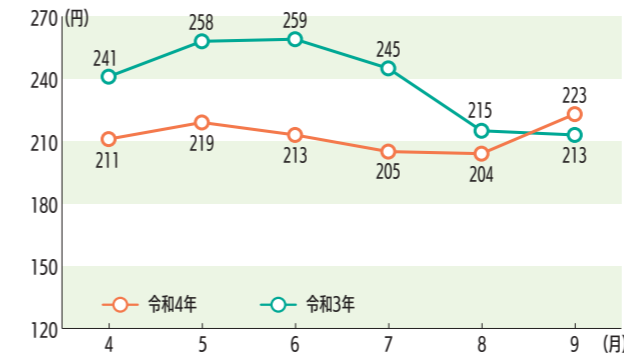
鶏卵

8月の全国の餌付け羽数は8,211千羽(前年比104.2%)。東西別の実績では前年比をとともに上回った。東日本は101.2%となり、特に北海道エリアで167.6%と大幅に増加した。西日本も107.8%と上回り、中国エリアにおいて125.1%と増加した。関東エリア以外は、前年を上回る推移となった。

8月の鶏卵の1人あたり家計消費量は877g(前年比95.8%、前々年比94.2%)となっている。コロナ禍前の令和元年比では100.8%となっており、巣ごもり需要は緩和されているものと見られる。

9月の東京相場の月間平均は、Mサイズ223円(前年比+10円、前月比+19円)。需要面は、大手ファースト

鶏卵取引価格・全農たまごMサイズ基準値(東京)



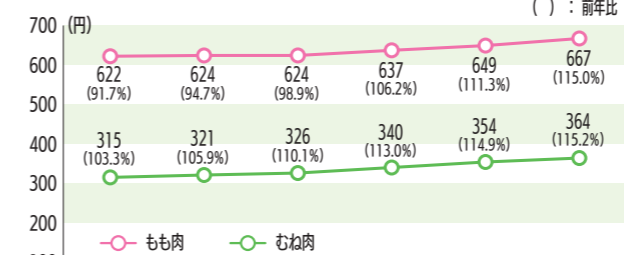
鶏肉

生産・処理動向調査によると、8月の推計実績は処理羽数59,452千羽(前年比102.6%)・処理重量174.2千t(同101.5%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%、処理重量は0.7%下方修正された。育生は、暑さの影響で食餌量が落ち、増体の鈍りがあったと考えられるものの、おおむね順調だった。

財務省が9月29日に公表した貿易統計によると、8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から1.8千t増の47.4千t(前年比0.4千t増)。国別ではブラジルが1.5千t増、タイが0.2千t増となっている。8月実績は前月輸入量より増加し、9月以降も増加が予想される一方、価格は徐々に下げ基調となっている。

8月の推計期末在庫は国産28.5千t(前年比81.7%・前月差-0.4千t)、輸入品121.2千t(同108.8%・同+0.1

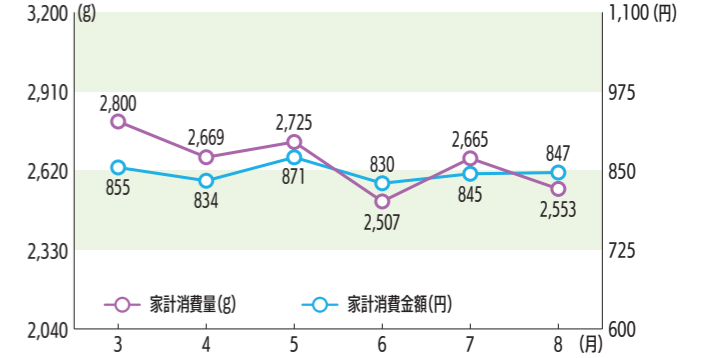
ブロイラー(正肉)市況の推移



フードチェーンのプロモーションにともない、中玉を中心に強い引き合いが見られた。また、問屋筋でも学校給食の再開や行楽需要から引き合いが見られ、量販筋も定番・特売ともに堅調な荷動きだった。これらの状況から相場は上伸の展開となった。

今後、供給面は本格的な需要期に向けて生産調整明けの産み出しが始まり、稼働羽数が増加していく予想。しかし、一部では生産抑制の動きが見られ、生産動向を注視する必要がある。需要面では、気温の低下とともに本格的な季節需要の盛り上がりが見込まれ、「全国旅行支援」の開始やインバウンド需要の回復などにも期待がかかることから、相場展開は強含みと予測する。

鶏卵の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



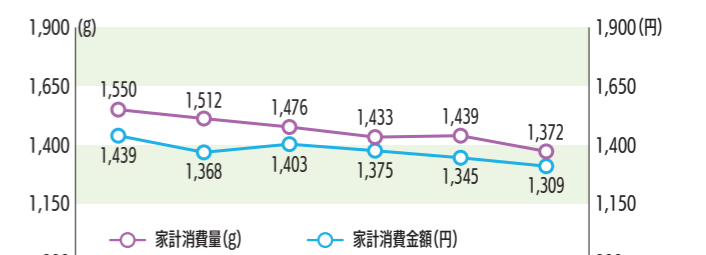
千t)と合計で149.7千t(同102.3%・同-0.3千t)となった。

9月の月平均相場は、もも肉667円/kg(前月差+18円)・むね肉364円/kg(同+10円)、正肉合計で1,031円/kgと前月を28円、前年同月を135円上回った。もも肉相場は月初656円、月末は683円となった(昨年は月初571円、月末587円で16円の上げ)。昨年の相場より大幅に上回り、前月に続き正肉価格が1,000円を超えた。

10月の生産量は、前年より若干下回る計画。需要面では、外食産業が回復傾向にある一方、輸入品の高騰によって一部で国産への切り替えが見られ、国産鶏肉の需給はタイトな状況が続く、価格も高水準で推移していく見通し。もも肉相場はやや上げの月平均680円、むね肉相場は月平均370円と予測する。

【令和4年11月の相場予想】 ●もも肉:690円 ●むね肉:380円

ブロイラーの家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



プレゼント

締め切り
2022年
11月25日到着分
まで



本誌に対するご意見や、読者アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選でJAタウンに出品されている各地の名産品等をプレゼントします。申し込みはとじ込みハガキ・FAX用紙・QRコードをご利用ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

JA全農ふくれんより 「恋する八女茶ティーバッグセット」

煎茶ティーバッグ 100g(5g×20P×1袋)
玉露ティーバッグ 75g(5g×15P×1袋)



3名様

ちくさんクラブ21及びハガキ・FAX・メール、アンケートの個人情報保護法対応

ご提供いただいた個人情報は①誌面企画への反映、②質問に対する回答発送、③意見に対する確認作業、④プレゼント発送に利用いたします。また、この情報はJA全農からの情報提供を目的として利用させていただくこともあります。個人情報保護方針に基づき厳重に管理いたします。詳しくは「JA全農ホームページ」にあります個人情報に関するご案内をご覧ください。https://www.zennoh.or.jp

今回のテーマ

- ▶ちくさんクラブ21のWebサイトにある嬉しい機能はなんですか？
- ▶どのような畜産セミナーや勉強会の開催を期待しますか？理由についても教えてください。

お詫び
平素は、ちくさんクラブ21をご愛読いただき誠にありがとうございます。本誌141号にて、増丁(同じページを2枚としてしまうこと)した冊子をお送りしてしまった可能性がございます。また、アンケートフォームのリンクが繋がらない事象が発生いたしました。愛読者の皆さまには大変なご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。ページに欠落がないため、情報の不足はありませんが、増丁の冊子がお手元に届いた方には正しい冊子をお送りいたします。JA全農畜産生産部推進・商品開発課(TEL 03-6271-8236)までご連絡くださいますようお願いいたします。

資材紹介 肥育豚体重推定器 Hapimo P-Scale (ハイコープver.)

簡単計測
低い誤差率
作業効率UP

計測方法

センサーから豚の体表(腰線)まで約1.0~1.6M

直立した姿勢で、操作のしやすい高さから撮影



Hapimo P-Scale(ハピモ ピースケール)は目勤で行っている肥育豚の体重推定を非接触で簡単に計測できます。GUNタイプで軽量・片手操作で撮影、体重を推定し画面に表示します。ベテラン並みの目勤に代わる体重推定が誰でも簡単にできます。

製品構成	
寸法	外径サイズ 132mm×94mm×186mm (持ち手部分除く)
重量	900g
バッテリー	充電により繰り返し使用可能
付属品	充電電池2本(1本は予備)、充電器、USBメモリ

【お問合せ先】
全農畜産サービス株式会社 資材事業部
TEL:03-5245-4871
URL:https://www.zcss.co.jp/



読者の広場

少しずつ、木々が色づいてきました。畜舎の冬支度はもうお済みですか？今回は事業継承の際、JAに期待すること、お気に入りの畜産系チャンネルについてうかがいました。全国各地から届いた熱いメッセージをご紹介します！

読者からひと言

- Dr.ジニアのMyカルテで対策の基本の「定期的な牛舎の清掃と消毒」の中で紹介されていた、石灰の種類や希釈倍率などについて、また、簡易的発泡消毒器や石灰塗布機の販売先を教えてください。(佐賀県・黒毛和牛肥育 匿名希望さん)
- 「一生懸命」「共創するチカラ」などの記事では、現場の様子、顔を見ることができ、自分たちも頑張らないと、と励ましてもらっています。けれども、飼料価格の高騰で明るい未来が見えなくなっています。飼料価格をおさえる取り組みがあれば、テーマに取り上げていただきたいです。(富山県・養豚 ファイトンさん)

※お寄せいただいたご意見・ご要望につきましては、誌面制作の参考とさせていただきます。

「読者の広場」には締め切り日までにいただいた分を掲載しています。

Q 事業継承の際、JAのサポートで期待することはありますか？

- 事業継承の場合、自社株の移行だけでなく、相続の話もついてくるのでトラブルが発生しやすい。間に第三者のJAさんに入っていただくとやりやすいと思う。また、事業継承には中小企業診断士やいろいろな機関がありますが、そこには高額報酬が発生してしまうので、低コストで診断できる機関を紹介してほしい。(新潟県・養豚 ホルモンしんちゃん)
- 飼養パターン別のマニュアルを作って、指導に役立ててほしい。新入社員が入っても、知識が伝わりたくないと辞めてしまう。(岩手県・酪農 ミルクのみおばさん)
- ヘルパー制度の確立。先代からヘルパー制度がなく、病氣入院、冠婚葬祭の時など困り果てていた。365日休みなしはつらい!!(三重県・黒毛和牛 クロウシさん)

Q TwitterやYouTube等のSNSで お気に入りの畜産系チャンネルはありますか？ また、よく見るホームページなどはありますか？

- 第12回全国和牛能力共進会予選会。(滋賀県・黒毛和牛 メタボのじーじいさん)
- とちぎの和牛を考える会のホームページ。(栃木県・黒毛和牛繁殖 じいじさん)
- よつとんch。(新潟県・養豚 ホルモンしんちゃん)

見てみて! うちの農場 ~高等学校編~

岡山県立瀬戸南高等学校

本校では、生物生産科・飼育類型の生徒、約70名が黒毛和種22頭、採卵鶏1,400羽を飼育しています。第6回和牛甲子園最優秀賞、第12回全国和牛能力共進会への出場を目標に黒毛和種を飼養管理。採卵鶏は、県卵質共励会最優秀賞を目標としています。学生たちは、日々、愛情を込めて飼育管理に励んでいます。畜産研究所、家畜保健衛生所や農協など、地域の方々の指導を受けながら、「岡山和牛」の価値を高められるように取り組んでいます。



大切に飼養してきた出品牛

運動中の出品牛

黒毛和種を肥育している皆さん

農場で働くご家族、従業員の方々などを写真とともに紹介します。写真は農場内ならOK。写真には簡単な説明を書き添えていただき、お気軽に編集部までご送付ください。なお、写真の返却は致しかねます。あらかじめご了承ください。宛先は〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JA全農畜産生産部推進・商品開発課/ちくさんクラブ21編集部もしくは、eメール「zz_zk_chikusan_club@zennoh.or.jp」まで。

表紙写真
高山牧場の皆さんとご家族、第46回九州管内系統和牛枝肉共励会受賞者の皆さん、牛商丑力株式会社の皆さん、STPFの皆さん

編集委員
鈴木和明/中尾山隆司/剣持和幸/澤明/森本哲生/嶋亮一/相良倫成/内堀寛之/江崎尚二/泉瑞枝/出雲智子/児玉博士/加藤美和/笹渡翔/岩橋かをり/小宮山大介

発行元
JA全農畜産生産部推進・商品開発課
東京都千代田区大手町1-3-1
TEL03-6271-8236 FAX03-5218-2526

編集後記
「一生懸命」では、栃木の高山牧場さまを取材させていただきました。取材にご協力いただいた皆さまに深くお礼申し上げます。取材後、車を走らせ少し離れたところから牛舎全体の写真を撮らせていただきましたが、その時見た美しい景色に感動しました。
次回、12月発行の143号では鹿児島全共の特集をお届けする予定です。どうぞ、次号も楽しみにお待ちしております。(K.S.)

